

様式第2号の1 - 【 実務経験のある教員等による授業科目の配置】

大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1 - を用いること。

学校名	新潟大学
設置者名	国立大学法人新潟大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人文学部	人文学科	夜・通信	69	39		108	13	
教育学部	学校教員養成課程	夜・通信			124	193	13	
法学部	法学科	夜・通信		84		153	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		32		101	13	
	経営学科	夜・通信				101	13	
理学部	理学科	夜・通信		34		103	13	
医学部	医学科	夜・通信			185.5	254.5	19	
	保健学科	夜・通信			297	366	13	
歯学部	歯学科	夜・通信			97	166	19	
	口腔生命福祉学科	夜・通信			83	152	13	
工学部	工学科	夜・通信		147		216	13	
農学部	農学科	夜・通信		99		168	13	
創生学部	創生学修課程	夜・通信		14		83	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり）

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/announce/studysupport/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし

（困難である理由）

様式第2号の2 - 【 - 学外者である理事の複数配置】

国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2 - を用いること。

学校名	新潟大学
設置者名	国立大学法人新潟大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり）
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/organization/executive/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	北海道大学大学院先端 生命科学研究院教授	平成30年2月1日 ～ 令和2年1月31日	社会連携・財務担当
常勤	東北大学人事企画部長	平成31年4月1日 ～ 令和2年1月31日	総務・労務担当
(備考)			

様式第2号の3【 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟大学
設置者名	国立大学法人新潟大学

厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスについては、「シラバス作成に関するガイドライン」を策定している。シラバスに記載する各項目については、毎年、ガイドラインを見直し、改善案については、全学委員会等で審議を行い、承認されたガイドラインに基づき、全学で統一された基準の元、シラバスを作成している。</p> <p>公表については、例年、12月～1月にシラバスを作成後、2月から新潟大学ホームページ及び学務情報システムで公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	新潟大学ホームページにおいて公表 (URL は以下のとおり) https://www.niigata-u.ac.jp/academics/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の厳格かつ適正な評価に関しては、共通的な成績の評価基準を定め、「秀 (100 ~ 90)」、「優 (89 ~ 80)」、「良 (79 ~ 70)」、「可 (69 ~ 60)」、「不可 (59 ~ 0)」で評価している。それぞれの評価の基準については、明文化された各授業科目の到達目標に対しての達成度を評価し、単位を与えている。</p> <p>(成績評価基準)</p> <p>秀 授業科目の目標を超えている。 優 授業科目の目標に十分に達している。 良 授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。 可 授業科目の目標の最低限度を満たしている。 不可 授業科目の目標に達していない。</p>	
<p>3 . 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>新潟大学では、平成 12 年度から GPA による成績評価を実施しており、現在は 7 学部で実施している。</p> <p>現在、統合型学務情報システムにおいて全ての学生の GPA を下記の計算式により算出している。</p> <p>算出された GPA は、授業料免除、奨学金等の選考、履修指導等に活用している。</p> <p>GPA = (各授業科目の単位数) × (各授業科目の GP) の総和 / (履修した各授業科目の単位数) の総和</p> <p>ここで GP とは、GP = (成績評価 - 50) / 10 である。 この計算式は、欧米やアジア諸国への留学等の際にも活用できるものである。</p> <p>なお、GPA 制度を導入していない教育学部、医学部 (医学科、保健学科) 及び歯学部 (歯学科、口腔生命福祉学科) については、各授業科目の成績評価 (100 点満点) の合計を平均した数値を基に、適切に履修指導等を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>新潟大学ホームページにおいて公表 (URL は以下のとおり) https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/announce/studysupport/</p>
<p>4 . 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学で定める人材育成目標に即し,各学部におけるディプロマ・ポリシーを策定し,本学のホームページで公表している。</p> <p>ディプロマ・ポリシーで定めた人材育成目標に対しての学修成果を図りつつ,カリキュラム・ポリシーに沿った各教育課程における卒業要件単位を修得した学生に対し,各学部の教授会において,学位授与の要件を満たしているかについて判定を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり) https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/policies/</p>

様式第2号の4 - 【 財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校) 】

大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4 - を用いること。

学校名	新潟大学
設置者名	国立大学法人新潟大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/09/zaimusyohyou29.pdf
収支計算書又は損益計算書	新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/09/zaimusyohyou29.pdf
財産目録	-
事業報告書	新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/09/jigyohoukokusyo29.pdf
監事による監査報告（書）	新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/09/h29kaikeikansa.pdf

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：国立大学法人新潟大学年度計画 対象年度：平成16年度～平成31年度）
公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/operation/plan/
中長期計画（名称：国立大学法人新潟大学中期目標 対象年度：平成16年度～平成33年度，国立大学法人新潟大学中期計画 対象年度：平成16年度～平成33年度）
公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/operation/plan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/announce/value/

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/announce/value/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的（公表方法：新潟大学人文学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり）） https://education.joureikun.jp/niiigata_univ/act/frame/frame110000378.htm
（概要） 新潟大学人文学部規程（抜粋） （本学部の教育研究の目的） 第 2 条 本学部は、人間とその文化に関する多角的・総合的な研究に基づき、広い視野と深い教養、高い倫理性を備え、現代社会の多様な課題に対応できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり）） https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/humanity/threepolicies-f/
（概要） 人材育成目標 人文学部では、人間、社会、文化の多様性を学修できる環境を整えるとともに、次の 4 点に集約される基本的能力、態度、姿勢を有する人材の養成を目標に掲げている。 ・人間、社会、文化に関わる諸問題を多角的にアプローチするとともに、分析的に理解し、主体的に取り組むことができる。 ・社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。 ・身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献できる。 ・異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。
修了認定（学位授与）の基準 卒業論文（10 単位）を 4 年間の学修の総合的成果として位置付け、プログラム修了認定の基準に即した学修成果を示すものとして扱う。 すべての学生にそれぞれ定められている卒業論文指導担当教員が日頃の学修（卒業論文の構想発表会や中間発表会等）を指導するとともに、提出後の卒業論文の審査および口述試験（卒業論文発表会等）により、学修の状況や成果を判定する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり）） https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/humanity/threepolicies-f/
（概要） 教育課程の特徴 人文学部では、授業科目開設にあたり、確かな専門知識と幅広い教養を涵養する。
教育課程の編成方針 教養教育と専門教育の連携の上に構築された学士課程教育の中で、人文的実践知を育むことを目指す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり）） https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/humanity/threepolicies-f/

(概要)

教育内容・特色

古今東西の古典から現代のコンピュータ文化まで、人間と文化を対象とした多角的・総合的な教育を行うことにより、広い視野と深い教養、高い倫理性を備え、現代社会の多様な課題に対応できる人材を育成します。

学生は、1年次に、6主専攻プログラム(心理・人間学、社会・地域文化学、歴史文化学、日本・アジア言語文化学、西洋言語文化学、メディア・表現文化学)について、ガイダンスを受けるとともに、入門講義を受講して理解を深め、2年次以降は、選択した1つの主専攻プログラムを中心に幅広く学修します。

求める学生像

- しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲をもつ人
- 豊かな感性と強い関心をもって学習に取り組む人
- 人間・社会・文化に関わる諸問題に関心のある人

入学者選抜の基本方針

一般入試(前期日程)

• 高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、人文学部での学修に関連する科目の理解と応用能力を備えた人を選抜します。

• 大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、国語と外国語を必修科目として課し、人文学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。また数学と地理歴史から1教科を選択科目として課し、人文学の各分野に対する適性を評価します。

一般入試(後期日程)

• 高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、論理的な思考能力と表現能力を備えた人を選抜します。

• 大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、総合問題を課し、人間・社会・文化の学修に関する適性を評価します。

推薦入試

• 高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、上記の「求める学生像」にふさわしい人を選抜します。

• 大学入試センター試験では、3教科3科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。小論文と面接では、人文学に対する学習意欲と適性を評価します。

学部等名 教育学部

教育研究上の目的(公表方法:新潟大学教育学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

https://education.joureikun.jp/niiigata_univ/act/frame/frame110000384.htm

(概要)

新潟大学教育学部規程(抜粋)

(教育研究の目的)

第1条の2 本学部は、学校教育に関する研究を基盤として、その専門的な理論及び技術・技能を身につけ、広く生涯学習社会における諸課題に即応できる実践的能力を備えた教育的指導者の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針(公表方法:新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

<https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/education/threepolicies-f/>

(概要)

プログラムの概要

本学部のプログラムは、初等教育専攻プログラム・中等教育専攻プログラム・特別支援教育専攻プログラムの三つからなる。各プログラムはそれぞれ、初等教育教員・中等教育教員・特別支援教育教員としての基礎的な素養を担保する、教育の本質や教育内容、教育方法・技術等の理解、幼児・児童・生徒の発達や実態等の理解に関する基礎的・基本的な知識を修得するための科目と、各教科、道徳等に関する専門的知識・技能を修得するための科目から構成されている。

人材育成目標

総合大学としての新潟大学で学ぶ利点を活かし、学校教育教員として必要とされる基礎的な知識・技能・態度に加えて、広い視野と豊かな教養をもち、本学の理念である自律と創生の精神に富んだ人材の育成を目標とする。本学部の三つのプログラムの修了者にはそれぞれ、教育職員免許法で定める小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(各教科)・特別支援学校教諭一種免許状等を取得できる資格が与えられる。それぞれのプログラムの修了者は、新潟市をはじめとする新潟県内や隣接自治体において、人格・能力ともに優れた学校教育教員や特別支援指導員等として活躍することが期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/education/threepolicies-f/>

(概要)

プログラムの到達目標(期待される学修成果)

1.知識・理解

- (1) 自分の専門分野を越えた幅広い知識・視野と深い教養を身につける。
- (2) 初等教育・中等教育・特別支援教育における各教科の基礎的知識および理論・技術を身につける。
- (3) 初等教育・中等教育・特別支援教育に関わる教育者として、信頼できる倫理観をもち、
- (4) 初等教育・中等教育・特別支援教育が社会的にもつ公的機能に関する知識と理解を得る。
- (5) 幼児・児童・生徒に関する総合的な理解と、初等教育・中等教育・特別支援教育における教育課程に関する専門的知識・理解を得る。
- (6) 修得した専門知識および周辺領域の知識・技能を現場で適切に応用・駆使し、実務上の問題点を見つけ出し、解決策を考えられる。

2.当該分野固有の能力

- (1) 初等教育教員・中等教育教員・特別支援教育教員としての基礎的素養を担保し、教育の本質に関する学習を通じて、現場に基礎知識を応用できる能力を涵養する。
- (2) 幼児・児童・生徒の発達や実態を理解し、幼児・児童・生徒に関して順応的に問題を考えることができる。
- (3) 学校や教育の現状および教育の今日的課題について分析することができる。
- (4) 授業計画を設計し、授業を実施するとともに、そのあり方を見直す能力をもち、

3.汎用的能力

- (1) 基礎的な英語能力をもち、こと、および言語学習を通じて英語圏以外の異文化を理解することで、他者・他国の立場から物事を考える能力を涵養する。
- (2) 様々な課題に対して専門分野および周辺領域の知識・技能を駆使して、多面的に思考し、解決策を考えられる。
- (3) 課題を探究し、その結果を公開できる論理展開力とプレゼンテーション・論議能力を身につける。
- (4) 創造性と応用力に富み、課題探究のために必要な理論や技術を体系立てるデザイン能力をもち、

4.態度・姿勢

- (1) 新しい知識・技能を積極的に学び、広く世界で活躍できる。

- (2) グループワークを通して連帯する精神を養い、社会の一員として貢献できる資質を備える。
- (3) 専門分野および周辺領域の知識・技能を生かし、さまざまな課題の解決策を考えぬくことができる。
- (4) 幼児・児童・生徒の安全性について絶えず配慮しながら教育活動をおこなうことができる。

プログラムの履修要件

- 幅広い分野 にわたり、高校卒業レベルの学力を確実に修得している。
- 専門科目の学習に必要な、高校卒業レベルの基礎学力および基礎的実技能力を有する。
- 通常の間人関係に必要なコミュニケーション能力を備えている。
- 学校教育に対し熱意と関心をもっている。
- 初等教育教員・中等教育教員・特別支援教育教員になることを目指している。

カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- 育成する人材とその到達目標を多角的・総合的に検討し、7本の柱を立てた。この7本を、そのまま科目群（キャリア教育科目群、教育科学科目群、教育心理・カウンセリング科目群、教育実践科目群、教育方法科目群、教育内容科目群、教養教育科目群）とした。
- 教育実践科目群を中心に配置し、これを両翼の理論的な科目群（キャリア教育科目群、教育科学科目群、教育心理・カウンセリング科目群と教育方法科目群、教育内容科目群、教養教育科目群）が支える形をイメージした。
- 教育実践科目群は、いわゆる「4年一貫の教育実習」として、各学年にバランスよく設定した。
- 専門教育に関する授業科目と教養教育に関する授業科目のバランスを考慮した。
- 卒業研究（卒業論文、卒業制作等）を必須とし、確固とした専門的力量的の育成を考慮した。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/education/threepolicies-f/>

（概要）

学校教員養成課程学校教育コース 学校教育学専修

教育内容・特色

●教育内容・方法、授業論・学級指導論、教育哲学、教育史、教育政策と法、教育社会学など、多面的な分野を学習し、教育制度や教育理論についての歴史的、本質的考察を行うとともに、いじめ・不登校・落ちこぼれ問題などの教育諸問題を理論的、実証的に研究します。そのことによって、現代社会の要請に応えながら、より質の高い教育を追求する教師を育成します。

1年次においては、教養教育に関する授業科目を中心として、本学部の1年次指定科目と興味のある諸分野を広く学習します。2年次においては、将来進むべき方向や取得する免許状の種類を確定しながら、できるだけ多くの専門教育に関する授業科目を履修します。3年次以降は、教育内容・方法、授業論・学級指導論、教育哲学、教育史、教育政策と法、教育社会学の6分野に分かれ、分野ごとの専門知識を深化させ、それにもとづいて4年次の卒業研究を行います。卒業研究では、自らの問題意識を明確にし、それに向けて粘り強く思考を展開していく能力、現代社会の諸問題を従来とは異なる視座から考察していく能力、などを養うような質の高い教育をおこないます。

求める学生像

- 教師になるために不可欠な、柔軟な心と、頑固な魂と、自由な精神を持つ人。
- 学校教育学の確かな専門知識を身につけたいと考えている人。
- 学校教育全体を総合的に捉える広い視野を養いたいという熱意のある人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、英語、国語、数学から2科目を課し、教職科目および学校教育学を学ぶ上で重要なこれらの科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試（後期日程）

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、面接を課し、教員に必要とされるコミュニケーション能力を評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験 教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程学校教育コース教育心理学専修

教育内容・特色

●教育心理学専修では、教育心理学をはじめ、学習、発達、臨床、心理測定・評価等の心理学に関する知識を学び、卒業後は専修で身につけた知識や技能を日々の授業や特別活動、生徒指導また学級経営などに活かすことができる学校教員の養成を目指します。

1年次は大学学習法（スタディ・スキルズ）を履修し、大学における学習法を学びつつ、教養科目を中心に履修します。2年次より教育心理学専修の専門科目として、発達心理学、教育統計学、教育心理学実験演習などを履修します。3年次以降は、学習心理学、発達心理学、臨床心理学、キャリア心理学など研究室に配属され、卒業論文の作成に向け担当教員による指導を受けます。

●また、これと併せて、教育実習、学習支援ボランティア、附属校園等での公開授業や講演会への参加などを通じ、教員になるための実践的な学びを深めていきます。

求める学生像

●教育について関心があり、教員になろうという明確な意志と情熱を持つ人。

●子どもが好きで、積極的に関わっていくことのできる人。

●教師を目指すものとしての自らの課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている人。

●教育に関する諸問題について、複数の視点から捉え、総合的かつ論理的に考察できる力を身につけることができる人。

●子ども一人一人の特性を理解し、それぞれに応じた、さまざまな問題の支援ができる力を身につけることができる人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

◆将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

◆大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

◆個別学力検査では、英語、国語、数学から2科目を課し、教職科目および教育心理学を学ぶ上で重要なこれらの科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試（後期日程）

◆将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

◆大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

◆個別学力検査では、面接を課し、自己表現能力やコミュニケーション能力を備えた小学校教員としての資質を評価します。

推薦入試

◆将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

◆高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

◆大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

◆面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程学校教育コース特別支援教育専修

教育内容・特色

◆特別支援教育専修の修了者には、教育職員免許法で定める特別支援学校教諭一種免許状を取得できる資格が与えられます。卒業後は、新潟県内や隣接自治体において、特別支援学校教員として豊かな知識と実践的指導技能を活かし、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の個別の教育ニーズに応じた教育実践の推進に尽力できる人材を養成しています。

◆特別支援教育専修科目の講義・演習は、「特別支援教育の基礎理論に関する科目」「特別支援教育領域（心理・生理および病理、教育課程および指導法）に関する科目」「特別支援教育領域以外の領域（重複障害、発達障害など）に関する科目」で構成されています。また、附属特別支援学校の授業補助や放課後支援、大学相談室での臨床、あるいは親の会との連携により、障害のある幼児、児童又は生徒と、様々な局面で関わり合いながら、特別支援学校教員としての資質を学ぶ機会が得られるところに特色があります。

求める学生像

◆特別支援教育に関する教員を志望する明確な意志を持つ人。

◆特別支援教育への強い熱意と関心を持っている人。

◆高校卒業程度の基礎学力（特に国語・数学・英語）および基礎的実技能力を確実に有している人。

◆社会で受け入れられる基本的な対人関係・コミュニケーション能力を有している人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

◆高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、特別支援教育に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

◆大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、英語、国語、数学から2科目を課し、特別支援教育を学ぶ上で特に重要な科目への理解度と応用力を評価します。

一般入試（後期日程）

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、理科に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、面接を課し、特別支援教育の教員を目指す熱意を持ち、自己表現能力やコミュニケーション能力などの義務教育諸学校の教員としての適性を評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「特別支援学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの特別支援学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース国語教育専修

教育内容・特色

●国語学・国文学・漢文学・国語科教育学という国語科の各分野にわたって幅広い知見を修得する中で、とりわけ学校教員に必須である言語と文化に関わる専門的能力を高めながら、高度な教育実践力を養うための科目を開講しています。

●専門教育に関する授業科目は、1年次の場合、「国語教育基礎演習」が開設されている他、「国語学概論」、「国文学概論」、「国文学史」、「漢文学講義」などの基礎的な学問内容を中心とする科目が履修できます。2年次以降は、「文法及び文章表現」、「音声言語」、「国語学講義」、「国文学講義」、「国語科教育法（初等・中等）」、「書道講義及び実習」など、専門教育に関する講義科目が多数履修できます。3・4年次には、「国語学演習」、「国文学演習」、「漢文学演習」、「国語科教育学演習」などの演習科目、及び各専門分野の卒業論文作成につながる「課題研究」を履修することになります。

▶2年次には、各学年に2名の学年担任を置き、修学面をはじめとする様々な相談に応じる体制を敷いていると同時に、3年次以降は上記国語学・国文学・漢文学・国語科教育学に分かれて専攻別研究室配属を行い、以後卒業論文の作成に向けて担当教員による一貫した指導体制を敷いています。

求める学生像

●言語と文化に関わる専門的能力、および高度な教育実践力を活かし、将来的に教員となる明確な意志を有する人。

●国語教育に対する熱意と関心を持ち、国語科の各分野（国語学・国文学・漢文学・国語科教育学）にわたって確かな専門知識を身につけたいと考えている人。

●豊かな人間性を備え、人との関わりを積極的に持とうとする人。

●高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を身につけている人。なお、入学後の学修のため、特に国語については、以下の科目を履修していることが望まれます。

「国語総合」、「現代文」、「古典」

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い

理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、国語と英語を課し、国語科の各分野（国語学・国文学・漢文学・国語科教育学）を学ぶ上で特に重要な科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試（後期日程）

●高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。特に、国語科の各分野（国語学・国文学・漢文学・国語科教育学）を学ぶ上で重要な国語、そして英語については、高い比重で評価します。

●個別学力検査では、小論文を課し、課題に対する理解力・論理的思考力・表現力を評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース社会科教育専修

教育内容・特色

●社会科教育専修では、学問の基礎に基づき、小学校および中学校の社会科教育に関心を持ち、その学習指導に熱意を持って取り組める教員の養成を目指しています。

●歴史学、地理学、法律学、政治学、社会学、経済学、哲学・倫理学、社会科教育学の諸学問に関わる講義・演習・実習を開講し、それらを広く学ぶことを通して、社会の学び方・教え方の基礎・基本を修得できるようにします。

▶年次では「スタディ・スキルズ」を履修し、大学での学習法を学びます。2年次から社会科の専門科目に関わる講義・演習・実習を広く履修し、3年次では春と秋に小学校もしくは中学校での教育実習に臨みます。4年次には各自の専攻する学問分野に関する卒業論文作成に取り組めます。

求める学生像

●小学校もしくは中学校社会科の教員を強く志望している人。

●広く社会の出来事に興味・関心を持ち、自ら探求する知的好奇心に溢れる人。

●児童・生徒と積極的に関わり、一緒に社会について学ぶことを大切にしたい人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、国語と英語を課し、社会科（高等学校地理歴史科・公民科を含む）の各分野（歴史学、地理学、法律学、政治学、社会学、経済学、哲学・倫理学、社会科教育

学)を学ぶ上で必要とされる科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試(後期日程)

●高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、面接を課し、教員になろうとする意欲やコミュニケーションの能力を総合的に評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース英語教育専修

教育内容・特色

英 語学 英 米文学・異文化理解の学問内容を広くかつ深く学習するとともに、英語コミュニケーションなどの分野で多数用意されているネイティブ・スピーカー等の授業を通じて、実際の英語運用能力を高め、英語科教育法(初等・中等)の科目の履修により、英語の授業を行うための理論と技術を身につけます。

▶年次は主に教養教育科目、2・3年次は専門科目と教育実習を履修し、4年次には英語教育学・英語学・英米文学のいずれかの分野で卒業研究を行うとともに、小学校や中学校の求めに応じて学習支援ボランティアに従事します。

求める学生像

●中学校・高等学校の英語教員や、英語を専門とする小学校教員になりたいという意志を持ち、英語をより深く勉強したいという熱意のある人。

●人とのかかわりを積極的に持ち、子どもたちに英語の学力をつけられる人。

●自ら課題を見だし、その解決方法を提案し実行できる人。

●入学後の学習のために、実用英語技能検定(英検)の2級以上に合格していることが望まれます。

入学者選抜の基本方針

一般入試(前期日程)

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、英語に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目の試験を課し、基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、国語と英語(英語リスニングを含む)を課し、英語教育専修で学ぶ上で特に重要な科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試(後期日程)

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科

目により、基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、面接を課し、英語を専門とする学校教員としての資質と適性を評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース数学教育専修

教育内容・特色

●学校教員養成課程として教育学、教育心理学等の課程共通科目を学ぶとともに、代数・幾何・解析・統計学および算数・数学教育法等の教科専門科目を幅広く学び、現在の学校教育に即応できる専門的な力量と実践的な能力を身につけます。

①年次においては、教養教育に関する授業科目を学ぶとともに、高校数学から大学数学への橋渡しとしての授業科目「スタディ・スキルズ」を学びます。2年次および3年次においては、情報数学をはじめとする教科専門科目を学び、将来の教科専門教員としての基礎知識と素養を身につけます。また、3年次における教育実習等を通じて実践的な技能を身につけます。

③年次の後期からは、4年次における卒業研究へ向けてゼミ活動をはじめます。卒業研究発表会は卒業研究の集大成として本数学教育専修における最も特徴ある大事な活動となっています。

求める学生像

●数学への興味関心が強く、数学教育に情熱をもって取り組むことができる人。

●算数・数学の良さや楽しさを伝えることに意欲のある人。

●教員になりたいという強い意欲をもつ人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●高等学校卒業レベルの数学の基礎力を持つとともに、数学への高い関心と理解および応用力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目又は8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、数学および理科又は英語から1科目を課し、数学を学ぶ上での基礎力と応用力を評価します。

一般入試（後期日程）

●高等学校卒業レベルの数学の基礎力を持つとともに、数学への高い関心と理解および応用力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目又は8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、面接を課し、数学を専門とする学校教員としての資質と適性を評価します。

推薦入試

- 将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。
- 高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。
- 大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。
- 面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース理科教育専修

教育内容・特色

●物理学、化学、生物学、地学の4分野にわたって学問内容を広くかつ深く学習するとともに、理科教育学の学習により理科教員として必要とされる基礎的な知識、教育技術、コミュニケーション能力を培います。さらに、教員・学生間や学生同士の日常的な討論を基礎とした科学的な教育観の育成と同時に、教育内容を自身で構成できる力量を持つ理科教育の専門家を養成します。

1年次においては、教養教育に関する授業科目を中心に学習し、将来教員となる人材に必要とされる広範な知識を身につけます。2年次においては、物理学、化学、生物学、地学の4分野と理科教育学の基礎的事項を実験・実習を含めて広く学習します。3年次以降は、物理学、化学、生物学、地学、理科教育学の5分野に分かれ、分野ごとの専門知識を深化させ、それにもとづいて4年次の卒業研究を行います。卒業研究では、自ら課題を設定する力、従来研究成果を批判的に評価する力、そして新しいものを創り出す力を養うような質の高い教育をおこないます。

求める学生像

- 理科教員になりたいという意志を持ち、理科をより勉強したいという熱意のある人。
- 人のかかわりを積極的に持ち、子どもたちに理科の面白さを伝えられる人。
- 自らの課題を見だし、その解決方法を提案し実行できる人。
- 入学後の学習のため、以下の理科の科目をできるだけ多く履修していることが望まれます。（物理基礎、物理、化学基礎、化学、生物基礎、生物、地学基礎、地学）

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、理科に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目又は8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、理科1科目と英語又は数学から1科目を課し、理科を学ぶ上で特に重要な科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試（後期日程）

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、理科に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目又は8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、面接を課し、教員になろうとする意欲やコミュニケーション能力などを総合的に評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース家庭科教育専修

教育内容・特色

●家庭科教育専修は、衣生活・食生活・住生活・生活経営の4領域から、くらしと環境(人、もの、生活など)の関係を科学的にとらえ理解するとともに、人間の発達段階に応じた課題について考察し、周りの学生や教員とかがわりながら課題を解決する方策について考え提案できる人材の養成を目的としています。そして、初等・中等段階の家庭科学習において、生活の質的向上につながる学習課題を設定し、課題解決的な学習活動を構成して指導できる実践的な力量をもつ家庭科教育の専門家を養成します。

1年次においては、被服学、住居学など各領域の基礎となる知識を学びます。2年次には、各領域の教科専門科目や実験・実習を通して、私たちのくらしを構成している知識や技術の理解を深化させ、家庭科教育内容の総合的な理解を深めます。3年次以降は、食物学、被服学、住居学、家庭科教育学に分かれて、それぞれの専門科目により知識・技術を深めます。そして卒業研究では、これまでの研究成果を踏まえて自ら課題を設定し、文献研究や実験、フィールドへ出での調査研究、授業実践など多様な方法により自らの研究課題を追求し新たな提案を目指した教育を行います。

求める学生像

●家庭科教員になりたいという意志を持ち、家庭科をより勉強したいという熱意のある人。くらしと環境の関係や人間の発達課題に関心を持ち、修得した知識・技能を主体的に家庭や地域社会に還元できる人。

自ら人や生活環境にかかわり、かかわることの良さを子どもに伝えられる人。

学習課題を見出し、課題解決的な学習活動を構成できる人。

入学者選抜の基本方針

一般入試(前期日程)

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、家庭科の専門分野に関連する科目への理解と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科6科目または7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。個別学力検査では、国語、外国語から1科目、数学1科目の合計2科目を課し、家庭科を学ぶ上で特に重要な科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試(後期日程)

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、家庭科の専門分野に関連する科目への理解と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科6科目または7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。個別学力検査では、面接を課し、家庭科を専門とする学校教員としての資質と適性を評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長または中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース技術科教育専修

教育内容・特色

●技術関連6領域(金属加工、木材加工、機械、電気、栽培、情報とコンピュータ)の基礎を学習し、自然科学の基礎的な視野のもとに、その応用的、実践的な指導者を養成します。さらに、コンピュータ科学の基礎も勉強し、IT関係の教育にも十分対応できる能力を備えた人材の養成を目指します。

●1・2年次においては、技術関連6領域にわたって広範な知識を身につけます。3年次に、金属加工、機械、電気、栽培の領域に分かれて専門を深め、それにもとづいて4年次に卒業研究を行ないます。

求める学生像

●生産なしに人間社会は、一日も成り立ちません。その社会の基礎を作る技術を学び、それを明日の世代の子どもたちに伝える仕事に情熱を持つ学生を希望しています。

●当専修においては理工系の学力は不可欠であり、以下の科目を履修していることが望まれます。(数学、物理、化学、生物)

入学者選抜の基本方針

一般入試(前期日程)

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、理工系科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目又は8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、数学、理科を課し、技術を学ぶ上で特に重要な科目への理解度と応用能力を評価します。

一般入試(後期日程)

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、理工系科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験で、5教科7科目又は8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、小論文を課し、科学技術を記述し伝えるために必要とされる論理的文章の作成能力を評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけでなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース音楽教育専修

教育内容・特色

●ピアノ、声楽、弦管打楽器、日本の伝統的な歌唱や和楽器の実習、作曲、音楽理論、音楽

史など音楽教育に必要な専門領域全般を学びます。

●学校現場や子どもたちと関わりながら、学校教員に必要な専門的能力を、理論と実践の両面から学びます。

求める学生像

- 教員を志望する明確な意志を持つ人。
- 児童生徒の音楽教育について、熱意と関心を持つ人。
- 音楽の基礎的な技能を有し、豊かな感性をはぐくみ、自己の能力を高めようとする人。
- 旺盛な学習意欲をもって積極的に音楽活動を行い、音楽を通して人とのかかわりを持つ人。
- 入学後の学習のため、以下の科目を履修していることが望まれます。（音楽、音楽、音楽）

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、音楽に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。
- 大学入試センター試験は5教科5科目又は6科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。
- 個別学力検査では、ピアノ、声楽、任意の楽器の三種の実技演奏を課し、特定の種目に偏らず、すぐれた演奏能力を有する人を選抜します。

推薦入試

- 将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけでなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。
- 高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。
- 大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。
- 面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース美術教育専修

教育内容・特色

- 造形表現や美術理論などの基礎を幅広く学び、その表現法や理論を正しく伝えるとともに、美術の楽しさを味わわせることができる美術教育の専門家を養成します。
- これからの学校や社会で求められる実践的指導力を育成するために、美術教育に関する理論を幅広い研究分野とグローバルな視野から深めるとともに、専門的な造形表現や学校現場・地域社会での現場実践を展開します。

求める学生像

- 学校教員を志す人。
- 教育に関心と問題意識を持ち、新しい教育を創造しようとする気概のある人。
- 造形芸術や芸術と社会の関わりに高い関心があり、専門的な表現力や教養を身につけると共に、その知見を社会的に役立てたいと考えている人。
- 入学後の学修のため、造形表現の基礎的能力とともに、教育に関する社会的な事象に関心を持ち、自分の考えを持つ習慣を身につけておくことが望ましい。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、美術に関連する科目への高い理解度と応

用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科5科目又は6科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、実技検査または小論文を課し、美術に関する基礎的能力とともに、専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●実技検査（静物着彩）では、基本的な形態や自然物などを組み合わせた静物モチーフを鉛筆、水彩絵の具を用いて描いて貰います（基本的な立体、空間把握力、画面構成力、色彩感覚を評価します。）。小論文では、与えられたテーマに沿って、自身の考えを論じてもらいます（美術に関わる事柄に対する見方や考え方と、その論述法を評価します。）。

●実技検査（臨書及び書の創作）では、書道用具を用いて、古名蹟の臨書と指定された語句の創作に取り組んでもらいます（基本的な字形、線質、配字、全体構成力を評価します。）。

一般入試（後期日程）

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、美術に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科5科目又は6科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

●個別学力検査では、実技検査を課し、美術に関する基礎的能力とともに、専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●実技検査では、基本的な形態や自然物などを組み合わせた静物モチーフを木炭、鉛筆などを用いて素描を描いて貰います（基本的な立体、空間把握力、画面構成力を評価します。）。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学校教員養成課程教科教育コース保健体育専修

教育内容・特色

●小学校教員免許を主専攻とするコースにあっては、小学校教科全般の指導能力を高めるとともに、保健体育の専門性を高め、小学校における体育指導や養護教諭と協力した保健指導の中心的役割を担う教員を養成します。中学校教員免許（保健体育）を主専攻とするコースにあっては、保健体育の授業における理論と実技指導の能力を高め、運動部活動などの教科外体育における生徒指導や学校保健活動などの学校マネジメント能力に優れた教員として中心的役割を担う人材を育成します。

●教科専門科目では、保健体育科教育法、体育原理、体育史、体育心理学、体育経営学、運動方法学、運動生理学、衛生学、学校保健などの理論科目に加え、体操・器械運動・ダンス・陸上競技・水泳・スキー・バスケットボール・バレーボール・サッカー・野球・剣道などの実技科目の履修により保健体育教員としての資質と専門性を高めています。

求める学生像

●小学校及び中学校における保健体育にかかわる教科の指導（小学校教員においては全教科の指導）、教科外活動の指導、学校保健、学校スタッフのマネジメントやコミュニケーションといったこれからの学校教育に求められる教員への高い情熱を持っている学生を求めています。

●保健体育専修においては、大学入試センター試験における基礎学力を前提として、様々な

問題を持つ現代の教育事情や学校教育への高い関心に加え、体育・スポーツ科学への旺盛な知的好奇心とスポーツ活動へ積極的に取り組む学生を求めています。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、保健体育に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験における5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、実技検査を課し、保健体育教員に求められる高い実技能力を評価します。

一般入試（後期日程）

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、保健体育に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

●大学入試センター試験における5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●個別学力検査では、面接を課し、保健体育を専門とする学校教員としての資質と適性を評価します。

推薦入試

●将来、学校教育の場における実践的指導力に優れた教員を育成するため、自分の得意分野だけではなく、幅広く確かな学力を有している人を選抜します。

●高等学校長又は中等教育学校長等が責任を持って推薦する「小学校の教員になる強い意志と情熱を持つ人」を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目もしくは8科目又は6教科7科目もしくは8科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎的な学力を評価します。

●面接では、自己表現能力やコミュニケーション能力などの小学校の教員としての適性を重視します。

学部等名 法学部

教育研究上の目的（公表方法：新潟大学法学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

https://education.joureikun.jp/niiigata_univ/act/frame/frame110000435.htm

（概要）

新潟大学法学部規程（抜粋）

（本学部の教育研究の目的）

第1条の2 本学部は、企業法務、行政法務及び国際法政に関する研究を基盤として、リーガル・マインド(法学的な考え方)とともにリーガル・リテラシー(法の仕組みや考え方を理解し、それを活用する力)を身に付け、新しい社会状況のなかで必然化する法化社会(自由と公正を核とする法秩序が国民の日常生活に機能している社会)において、国際化、情報化、地域化に対応できる総合能力を持った人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/law/threepolicies-f/>

（概要）

人材育成目標

●今後ますます法化、情報化、地域化、国際化する現代社会で活躍できる、法的素養を備えた人材を育成する。

●「個人の尊厳」を尊重し、「高い人権意識」を身につけた人材を育成する。

●歴史や文化、価値観の違いを理解し、地域社会および国際社会で活躍できる人材を育成する。

修了認定（学位授与）の基準

法学部では、それぞれの主専攻プログラムの教育課程の中で、共通して以下の能力を養成する。

•法学ならびに政治学の基礎的な用語、法体系、現行の政治制度もしくは行政制度の基本構造、および特定の政治学分野の対象ならびに構造を理解する能力

•当該分野固有の能力として、以下の能力

イ) 特定の法分野や政治学分野の理念ならびにその運用について説明することができる能力

ロ) 主要な学説、判例について説明することができる能力

ハ) 過去ないし現在における特定の政治的状况について説明することができる能力

ニ) 法や政治の諸事象の問題を抽出することができる能力

ホ) 法や政治が抱える諸課題の解決方策について、自説を展開することができる能力

ヘ) 個別の事案に対し、どのように法を適用するかを説明できる能力

•汎用的能力として、以下の能力

イ) 情報に関する今日的要請を踏まえ、情報の収集、整理、および発信のためのツールを駆使できる能力

ロ) 情報を整理し、考察を加え、自分の考えを的確かつ論理的に文章化する能力

ハ) 自己が有する情報に基づいて形成した主張内容、そして相手の主張・意見に対する反論を自分の言葉で相手に分かりやすく、かつ、正確に伝える能力

これらの能力を含む形で定められている各主専攻プログラムの修了認定の基準を満たした者に、学士の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/law/threepolicies-f/>

（概要）

教育課程の共通的な特徴

教養科目（卒業要件単位 30 単位）のうち、必修科目 種の外国科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語又は朝鮮語のいずれか一外国語で 6 単位以上を履修しなければならない。一外国語 6 単位以上の履修が求められるのは、複数の外国語を学んで未消化のままになるよりも、1 つの外国語の能力を十分に涵養する方が教育効果が高いと考えられるためである。また、必修科目 種のリーガル・スタディ ・ （各 2 単位、計 4 単位）を履修しなければならない。さらに、法学部導入科目であるリーガル・システム A・B（各 2 単位）については、同 A および B をセットで履修することが望ましい。これら以外の教養科目については、各学生の興味、関心、将来の志望に応じて自由に選択できる。

専門科目（卒業要件単位 94 単位）のカリキュラムは、コアとなるカリキュラムの履修モデルを用意している。それらは、時代の変化や社会の要請に対応した教育の展開が一層求められる今日、学生の自主的な選択を重視しながらも、開講科目を整理し、一定数の授業科目の履修を方向付ける体制である。まず、企業法務カリキュラムは、「法化 + 情報化」社会に対応するものであり、企業人として民間企業が抱える法的問題に対処できる能力や資質を養うことを目指している。そこで、これは学部共通科目に加え、主として、民法・商法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法・労働法・情報法・知的財産法・独占禁止法等の分野に属する科目から構成されている。次に、行政法務カリキュラムは、「法化 + 地域化」社会に対応し、地方自治体職員として自治体が抱える法的問題に対処できる能力や資質を養うものである。学部共通科目に加え、主として、憲法・行政法・自治体法・税法・社会保障法・行政学・公共政策・政治学・政治過程論・ジェンダー論等の分野に属する科目から構成される体制である。そして、国際法政カリキュラムは、「法化 + 国際化」社会に対応するカリキュラムとして、東アジアおよび西欧地域での活躍を志す学生や、企業・自治体・NGO の国境を越える地域協力事業を担うことを志望する学生にとって、履修の目安となる。このカリキュラムは、様々な組織の一員として、国際業務に求められる能力や資質を養うことを目指し、学部共通科目に加え、主として、国際法・法社会学・政治社会学・

中国法史・中国政治史・西欧法史・西欧政治史等の分野に属する科目で構成されている。そして、少人数教育の効果が最も期待される「法政演習」および「卒業研究」の集大成として、Junior Research Paper (JRP) の作成と報告を卒業要件として課していることも、本教育課程の特徴のひとつである。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/law/threepolicies-f/>

（概要）

教育内容・特色

教育内容

教育理念として、以下のものを掲げています。

法化し、情報化、地域化、国際化する社会で活躍できる、法的素養を備えたジェネラリストを育成する。

「個人の尊厳」を尊重し、「高い人権意識」を身につけた人材を育成する。歴史や文化、価値観の違いを理解し、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する。

以下のような教育内容・特色を有しています。

教育内容

●学生の進路志望に応じた、多様な法律系科目と政治系科目を用意しています。

●基礎教育・専門基礎教育・社会人準備教育という3段階の教育課程を設定し、専門性を深めていくための積み上げ型の教育を行っています。

特色

●多彩な演習授業の開講と双方向的・多方向的少人数教育の充実を図っています。

●現場主義を重視した教育、地域に根ざした教育を実施しています。

●自己表現・プレゼンテーション能力開発を重視しています。

●段階別教育目標の設定による入学から卒業までの一貫したカリキュラムを編成しています。

●「問題発見」、「課題解決」能力を養成するカリキュラム編成を行っています。

●基礎講義科目・基礎演習科目の開講による基礎能力の涵養を行っています。

●担任制・面談制によるきめ細かな指導を行っています。

求める学生像

●自分の可能性を発見し、才能を開花させ、よりよい社会の実現に貢献しようとし、そのための努力を惜しまない、元気と意欲のある人を求めています。

●入学時に備えておくべき基礎学力としては、社会問題に対する興味関心とそれに関する広範な知識を持っていること、論理的な考え方を日本語及び外国語によつて的確に相手に伝えられる基本的な能力を備えていることが望まれます。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●高等学校卒業レベルの十分な基礎学力を有するとともに、論理的思考能力や読解能力に優れ、法化社会への移行に積極的に対応し、国際化、情報化、地域化する社会で活躍する人材を選抜します。

●大学入試センター試験では、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、外国語、小論文を課し、法律学・政治学を学ぶ上で特に重要な論理的思考能力や読解能力、表現能力を評価します。

<p>一般入試（後期日程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高等学校卒業レベルの十分な基礎学力を有するとともに、論理的思考能力や読解能力に優れ、法化社会への移行に積極的に対応し、国際化、情報化、地域化する社会で活躍する人材を選抜します。 ●大学入試センター試験では、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、小論文を課し、法律学・政治学を学ぶ上で特に重要な論理的思考能力や読解能力、表現能力を評価します。 <p>推薦入試</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人格・学業ともに優れ、目的意識が明確で、法化社会への移行に強い関心を持つ勉学意欲旺盛な者を選抜します。 <p>調査書、推薦書、自己申告書及び面接を通して、新潟大学法学部の教育理念・目的をよく理解した上で、将来、国際社会及び地域社会に貢献したいという意欲を持つ者であって、潜在的・顕在的に、現代社会の諸問題を公正かつ理論的に解決できる能力を有し、国際化・情報化に対応するコミュニケーション能力及び総合的な視野に立った政策提案能力を有していると認められるものを評価します。</p>
<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：新潟大学経済学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））</p> <p>https://education.joureikun.jp/niigata_univ/act/frame/frame110000441.htm</p>
<p>（概要）</p> <p>新潟大学経済学部規程（抜粋）</p> <p>（教育研究の目的）</p> <p>第1条の2 本学部は、経済学又は経営学に関する研究に基づき、基礎的な専門知識と深い教養を備え、課題探求能力と総合的判断力及び国際性、社会性を身につけた人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））</p> <p>https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/economics/threepolicies-f/</p>
<p>人材育成目標</p> <p>プログラムを通じて、経済学・経営学についての知識を中心にした幅広い視野から課題を探求できる能力を有し、国内外の企業や公的団体などで中核的役割を担い、活躍する資質を有する人材の育成を目指すと共に、より豊かな知的探求心を持った創造的社会人を育成する。</p> <p>修了認定（学位授与）の基準）</p> <p>経済学部の教育課程で養成する以下の能力を有し、経済学・経営学の二つの主専攻プログラムで定める修了要件を満たした者に、学士の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会経済の基本的制度を学び、経済モデル（理論）分析と経済データ（実証）分析の方法を修得し、実践的に分析する能力。 ●日本をはじめ世界各地の社会経済の現状や歴史を学び、現実の社会経済問題を根源的に考察する能力。 ●企業や公共団体等の経営管理の諸問題を考えていく上で必要となる経営学の知識を修得し、活用できる能力。 ●企業活動を計数面から把握するために必要不可欠な簿記、財務会計、管理会計及び税法に関する基礎知識を修得し実務を行える能力。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））</p> <p>https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/economics/threepolicies-f/</p>

(概要)

教育課程の特徴

1年次より経済学・経営学の全般に関わる基礎的な学習を開始し、専門的な学習を行うために必要とされる幅広い技能を活用できる能力を身に付ける。また2年次から、本格的な専門教育と演習(ゼミ)を並行して行うことにより、単なる知識の積み重ねに陥ることなく、経済学・経営学の知識を常に現実の問題と結びつけ、「社会を見る目」を身に付けた人材を育成する。

教育課程の編成方針

体系的な学習を支援するため、経済学主専攻プログラムにある2つの専門領域(近代経済学とグローバル経済)、及び経営学主専攻プログラムにある3つの専門領域(企業経営と公共経営、会計税務)ごとに履修モデルを提示する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/economics/threepolicies-f/>

(概要)

本欄は、令和2年4月設置予定の経済科学部(仮称)のものを記載しています。

教育内容・特色

経済科学部は、人文社会科学全体を視野に入れた経済学・経営学の学修の拡大・深化と、課題探究能力の育成により、急速に変化しつつある現代社会において、地域社会の着実な発展に貢献しうる人材を育成します。

これを実現する教育体系として、経済科学部は、従来型の経済学・経営学の2つの分野に加え、日本を含む東アジア地域を中心にグローバルな課題の解決に取り組む人材の育成を目指す「学際日本学プログラム」、地域の実際の課題の解決を多様なステークホルダーと協働しながら主導・実行できる人材の育成を目指す「地域リーダープログラム」の2プログラムを新設し、合計4つのプログラムを編成します。

経済科学部の求める人物像

経済科学部では、本学の理念「自律と創生」に基づき、経済学・経営学を中心とする人文社会科学分野の幅広い学識に裏打ちされた課題探究能力をもって、地域社会の着実な発展に貢献することのできる人材の育成を目指し、この目標を実現するに相応しい能力を備えた人物を受け入れます。

1. 経済学・経営学を中心に人文社会科学分野を幅広く学び、地域社会の着実な発展に貢献することを望む人
2. 課題を発見し、その解決のために必要な知識・技能を主体的に学修することができる人
3. 課題に取り組むために他者とすすんで協働する態度をもった人
4. 高等学校教育全般にわたる基礎学力を有するとともに、大学で学修をいっそう深化・拡大することを望む人

入学選抜の基本方針

一般入試(前期日程)

高等学校教育全般にわたる基礎学力を中心的な観点として選抜します。大学入試センター試験で〔5教科7科目もしくは8科目〕又は〔6教科7科目もしくは8科目〕を課すとともに、個別学力検査では記述式の国語、数学、外国語の試験を課し、経済科学部で学ぶために必要な基礎学力を総合的に判定します。

一般入試(後期日程)

高等学校教育全般にわたる基礎学力を中心的な観点として選抜します。大学入試センター試験で〔5教科7科目もしくは8科目〕又は〔6教科7科目もしくは8科目〕を課し、その成績で合否判定します。

総合型選抜入試(AO入試)

課題を発見し、その解決のために必要な知識・技能を主体的に学修することができる人または課題に取り組むために他者とすすんで協働する態度をもった人を選抜します。

個別学力試験では、高等学校の学習一般を前提とし、特に経済・社会に関する諸問題について、論理的思考能力および日本語の理解力・表現力を評価する小論文と、さらに主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を面接にて評価し、自己推薦書等を勘案の上、総合して判定します。志願者数によっては二段階選抜を行います。

推薦入試

高等学校教育全般にわたる基礎学力を有するとともに、大学で学修をいっそう深化・拡大することを望む人を選抜します。個別学力試験では、高等学校の学習一般を前提とし、特に経済・社会に関する諸問題について、論理的思考能力および日本語の理解力・表現力を評価する総合問題を課して、その成績と志願理由書・調査書などを勘案の上、総合して判定します。

学部等名 理学部

教育研究上の目的（公表方法：新潟大学理学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

https://education.joureikun.jp/niigata_univ/act/frame/frame110000448.htm

（概要）

新潟大学理学部規程（抜粋）

（本学部の教育研究の目的）

第1条の2 本学部は、数学と自然科学の基礎研究に基づき、基礎的な専門知識と深い教養を備え、課題探求能力と総合的判断力及び国際性、社会性を身につけた人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/science/threepolicies-f/>

（概要）

人材育成目標

理学部では、基礎科学各分野の専門的知識や専門技能を修得するだけでなく、原理や本質を考える科学的思考力とともに、自然科学に関する広い視野や専門分野を横断して獲得した知識を活用し、科学技術の進化や社会構造の変動にもなって変化していく多様な現実の課題に柔軟かつ創造的に対応できる人材を養成する。

修了認定（学位授与）の基準）

理学部は、基礎科学の立場から産業や教育および学術的研究分野における多様な課題に柔軟かつ創造的に対応できる人材を養成するという目標のもと、数学、物理学、化学、生物学、地球・環境科学など基礎科学各分野の専門的知識や専門技能を有するだけでなく、原理と本質を考える科学的思考力、自然科学に関する広い視野、専門分野を横断する知識を持ち、これらを課題解決に活用できる学生に、学士（理学）の学位を授与する。到達目標は以下の通りである。

- 人文社会科学分野の基礎理解や語学を含む幅広い教養を身につけている。
- 数学、物理学、科学、生物学、地学などの理学の広範な分野における素養を身につけている。
- 各主専攻プログラムが対象とする専門分野における基盤的な知識や基本的な実践技能を修得し、科学的な思考力と判断力を身につけている。
- 専門分野の知識技能をもとにした実践的な課題解決力を身につけている。
- 専門分野における現実的な研究課題や専門分野をまたぐ複合的な課題に対応できる柔軟性を身につけている。

• 理学の素養と専門的知識技能をもとにした、コミュニケーション力、表現力を身につけている。

• 課題解決にむけて、積極的に取り組む意欲、協調性、発想力を身につけている。

これらの能力を含む形で定められている各主専攻プログラムの修了認定の基準を満たした者に、学士の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/science/threepolicies-f/>

（概要）

教育課程の特徴

理学部の教育課程は、すべての主専攻プログラムを理学科 1 学科の下に配置・構築した分野横断型の教育システムである。理学人材に共通して求められる科学的素養と汎用的能力の育成を強化するために、主専攻プログラムの第一段階（1 年次から 2 年次前半）には、アクティブ・ラーニングによる転換教育を含む理学部共通科目を導入する。2 年次後半以後の第二段階においては、分野横断型の学修を通して複合的な課題に柔軟に対応できる力を育成する「総合力プログラム」を導入し、専門分野を体系的に学修して専門的課題解決力を育成する「専門力プログラム」と併せ、多様な専門形成を可能とする設計とした。

教育課程の編成方針

理学部理学科には以下の 7 つの主専攻プログラムを設定する。

- 数学主専攻プログラム
- 物理学主専攻プログラム
- 化学主専攻プログラム
- 生物学主専攻プログラム
- 地質科学主専攻プログラム
- 自然環境科学主専攻プログラム
- フィールド科学人材育成主専攻プログラム

入学後の最初の 1 年半は、各主専攻プログラムに分かれることなく、全学生を対象に理学部共通教育を実施する。総合的な判断力・課題対応力の基盤となる理学の幅広い基礎リテラシーを修得するとともに創造性・柔軟性・コミュニケーション能力形成の基盤を培う。2 年次後半以後、主専攻プログラムのカリキュラムに沿って学修し、基礎科学各分野の専門知識と実践技能、特に課題解決力を身につける。主専攻プログラムでは、「専門力プログラム」あるいは「総合力プログラム」または理学部と農学部の学部横断型主専攻である「フィールド科学人材育成プログラム」のいずれかに沿って学修を進める。

• 教養に関する科目（初習外国語、英語、体育実技、人文社会教育科目、新潟大学個性化科目）により、幅広い教養を身につける。

• 「自然系共通専門科目」を履修することにより、数学、物理学、化学、生物学、地学の基礎を修得する。

• 「理学部共通ベーシック科目」、特に、アクティブラーニング（必修）により、能動的かつ実践的な活動によって、自らの学修ビジョンを形成して主体的学修への意識転換を図り、また、広い視野とコミュニケーション力を身につける。

• 「理学部共通ベーシック科目」の基礎実習（必修）により、基礎実践力を複数の分野で身につけることができる。

• 「理学部共通コア科目」により、専門形成の初期段階における知識を複数の分野で修得する。

• 講義、実験、実習、演習からなる主専攻専門科目により、選択した主専攻プログラムの専門分野における専門知識と実践技能を修得するとともに、卒業研究では、課題解決力や様々な汎用的能力を身につける。

• 「専門力プログラム」では、特定の専門分野での体系的な知識・技能の修得を重視する。

・「総合力プログラム」では、多様な社会のニーズに対して貢献できる人材像を目標に設定し、主専攻の専門科目だけでなく関連分野の他主専攻科目を合わせて履修し分野横断する課題への対応力を修得する。

・「フィールド科学人材育成プログラム」では、理学分野の基礎科学と農学分野応用科学を備えた上で、フィールド分野の専門的知識及び野外活動での実践力を修得する。

・特に明確な目標や強い学修意欲と能力もった学生には、「フロンティア・スタディ・プロジェクト」により、先取り履修などの積極学修や研究活動への参加を通して、優れた能力を一層伸ばしていく。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/science/threepolicies-f/>

（概要）

教育内容・特色

理学科での学修は、数学と理科の全分野に対応した7つの主専攻プログラム（数学プログラム、物理学プログラム、化学プログラム、生物学プログラム、地質科学プログラム、自然環境科学プログラム、フィールド科学人材育成プログラム）からなります。それぞれの主専攻プログラムでは、数学や理科の体系的教育を通して、理学全般の基礎と主専攻の専門的知識を身につけるとともに、種々の現象を理論や実験を通して理解し、的確に表現できる能力を身につけます。また、充実した野外実習科目を通して、野外の様々な場面で必要となる知識と技術と、それらを統合して多様な分野のフィールド活動に応用できる能力を身につけます。特に地質科学プログラムとフィールド科学人材育成プログラムではフィールド教育に重点がおかれます。

入学後は、入試の試験区分や選抜方法によらず、理学科の学生として理学の基礎教育を受け、理学の全体像を把握した後、2年次半ばに各主専攻プログラムへ移行します。

数学、物理学、化学、生物学、地質科学の各主専攻プログラムでは、主専攻の専門性を深める専門力プログラムと、主専攻だけでなく他専攻との学際分野も学ぶ総合力プログラムのいずれかを選択して履修します。自然環境科学プログラムでは、専門性を深めるために必要となる多分野の理学的知識を身につける専門力プログラムを履修し、またフィールド科学人材育成プログラムでは、理学部と農学部との授業を取り入れた独自のプログラムを履修します。

以上の各プログラムによって、それぞれの分野のエキスパートとして社会における諸問題に的確かつ柔軟に対応し解決する能力を育成します。

求める学生像

理学科は、理論、実験、あるいは野外観察の知識と方法の習得を通じて能動的な学習態度を身につけ、さらに習得した知識と方法を実践することによってより高度な専門的課題や社会の諸問題に臨機応変に対応し解決できる能力を身につけたいと考える人を求めています。特に、数学や理科に興味を持つとともに他分野への応用にも関心がある人、数理や自然の法則の探求に興味を持って取り組む人、また、理学の各専門分野に意欲的に取り組む人、そして、様々な個性や多様な能力を生かして、自らを成長させ、社会に貢献したいと考えている人を積極的に求めています。

入学後の学修のため、数学は下記の科目の内容を履修していることが望まれます。また理科は、下記の科目のうち複数の科目およびその基礎科目の内容を履修していることが望まれます。

数学：数学 ，数学 ，数学 ，数学A ，数学B

理科：物理，化学，生物，地学

入学選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

・高校卒業程度の基礎学力を身につけ、特に数学と理科について十分な基礎学力がある人を選抜します。

●大学入試センター試験では、5教科7科目の幅広い基礎学力をはかります。
●個別学力検査では、多様な能力と意欲をもつ人を受け入れるため、検査項目とその評価の重点の異なる以下の3つの選抜方法を設定し、そのいずれかによって選抜を行います。

選抜方法 A：数学，理科，外国語の基礎学力，なかでも数学および理科の基礎学力に重点をおいて選抜します。

数学

理科（物理，化学，生物，地学から1科目）

外国語

選抜方法 B：理科や数学の広い分野の基礎学力と外国語の基礎学力をはかり，選抜します。

数学，物理，化学，生物，地学から2科目

外国語

選抜方法 C：理科や数学の広い分野の基礎学力にくわえ，フィールドワークや野外を対象とする自然科学分野に対する意欲と適性を面接ではかり，選抜します。

数学，物理，化学，生物，地学から2科目

面接

一般入試（後期日程）

●高校卒業程度の基礎学力を身につけ，大学での学習意欲の高い人を一括して選抜します。

●大学入試センター試験では，5教科7科目の幅広い基礎学力をはかります。

●面接では，大学での学習意欲や適性，およびコミュニケーション能力をはかります。

推薦入試

●高校卒業程度の基礎学力を身につけ，特定の主専攻プログラムへの明確な志望動機があり，数学や理科に対する知的好奇心や探求心があるとともに勉学意欲の高い人を主専攻プログラム単位で選抜します。なお，フィールド科学人材育成プログラムでは推薦入試は行いません。

●面接によって各主専攻プログラムに対する興味や関心，大学での学習意欲や適性，およびコミュニケーション能力を，また書類審査によって高等学校卒業程度の基礎学力をそれぞれはかります。

●数学プログラムと物理学プログラムの志望者には，基礎学力試験によって各プログラムに応じて必要な学力をはかります。

●化学プログラムと生物学プログラムの志望者には，小論文によって各プログラムに応じて必要な基礎的な知識や，理学的思考力をもとに自分の考えを論理的に表現する能力をはかります。

●地質科学プログラムの志望者には，地学の基礎的な知識水準の高低にはよらず，プログラムでの勉学に必要な論理的思考力を小論文によってはかります。

●自然環境科学プログラムの志望者には，小論文によって理学的思考能力と自分の考えを論理的に表現する能力をはかります。

学部等名 医学部

教育研究上の目的（公表方法：新潟大学医学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

https://education.joureikun.jp/niigata_univ/act/frame/frame110000476.htm

（概要）

新潟大学医学部規程（抜粋）

（本学部の教育研究の目的）

第1条の2 本学部は，学術の研究と真理の探究及び高度な教養を備えた良識ある社会人の育成を基本に，医学・医療に対する多様な社会的要請に応えることのできる優れた専門的能力を有し，わが国及び世界の医学・医療に貢献できる人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり））

・医学科

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/medicine/threepolicies-f/>

・保健学科

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/health/threepolicies-f/>

（概要）

医学科

プログラムの人材育成目標

- 1.豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
- 2.高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
- 3.広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
- 4.保健，医療，福祉，厚生行政に貢献できる人材の育成
- 5.地域の医療に貢献するとともに，国際的に活躍できる人材の育成
- 6.探究心，研究心，自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

プログラムの修了認定（学位授与）の基準

医学科では，所定の年限在学し，医学科の教育理念「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づき定められた全科目に合格し，科学的姿勢，コミュニケーション能力，人間性，社会性などの医に求められるプロフェッショナリズムを十分に身につけた学生に学士（医学）の学位を授与する。

保健学科

人材育成目標

豊かな感性と人間愛に満ちた人道的な人格を有し，人の心を理解し，かつ専門的知識と技術を兼ね備え，全人的医療及びチーム医療の実践が可能な以下のような人材の育成を図り，国民的，国際的貢献はもとより地域医療・地域医療教育に貢献ができ，その職業を生涯にわたり誇りとする教育を行うことと，その基本となる研究を行うことを理念とする。

- 1.全人的医療を実践できる人材
- 2.人間性豊かで人道的倫理観を身につけた人材
- 3.医療技術分野における教育・研究の充実に寄与できる人材
- 4.臨床医療分野でコ・メディカルスタッフとして指導的役割を果たせる人材
- 5.国際社会の医療分野で活躍できる人材
- 6.地域医療の必要性を認識し，その向上に貢献できる人材

修了認定（学位授与）の基準）

本学科に看護学，放射線技術科学，検査技術科学の3専攻を置き，以下の項目を達成するための基本的知識，専門知識及び技術を修め，本学の卒業要件（教養教育科目・専門基礎科目・専門教育科目）の単位を修得した者に，学士の学位を授与する。

- 1.病者中心に自己開発を目指す優れた臨床医療技術者の育成
 - (1) 病む者中心の豊かな感性の修得
 - (2) 医療職者としての基礎知識と基礎技術の修得
 - (3) チーム医療の方法についての学習
 - (4) 異文化理解の方法についての修得
 - (5) 自ら考え応用していく能力の錬磨
- 2.医療の臨床に寄与する独自性の強い研究
 - (1) 人々の健康維持に寄与する新知見や技術の開発
 - (2) 人々の疾病の予防と疾病からの社会復帰に寄与する新知見や技術の開発
 - (3) 医療に関する時代要請に対応できる新知見や技術の開発
 - (4) 医療分野で臨床に貢献できる新知見や技術の開発
 - (5) 生涯教育への動機付け

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり））

・医学科

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/medicine/threepolicies-f/>

・保健学科

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/health/threepolicies-f/>

（概要）

医学科

プログラムの到達目標

- 患者・家族及び医療従事者間で適切なコミュニケーションをとることができる。
- 医学に関する知識を有し実践に応用できる。
- 患者・利用者の価値観や背景を理解し、個別性を尊重できる。プロフェッショナルにふさわしい倫理観をもち、礼節ある態度を示すことができる。
- 基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。
- 保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、その改善に貢献できる。
- 国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った医療を実践できる。
- 基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見し、論理的思考で問題解決をはかることができる。
- 生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を続けることができる。

プログラムの履修要件

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を十分に有する人
- 医学を学ぶ上で重要な科目への高い理解力と応用力を有する人
- 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探求心を有する人
- 協調性に富み、豊かな教養と人間性を有する人
- 広い視野を有し、積極的に行動できる人

カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

医学科の教育理念と教育目標に基づき、学位授与の方針に合致した人材を育成するために、共通教育科目と専門教育科目を体系的に編成し、能動的学修（アクティブ・ラーニング）の機会を全学年で設けると共に、先端医学、社会的要請、国際基準に対応する教育課程を編成・実施する。

1. 初年次教育では、幅広い知識・教養と専門教育科目修得の基本的能力を培う共通教育科目と、医学に対する動機づけやキャリアについて学ぶ専門科目を開講する。
2. 基礎医学教育では、講義、実習を組み合わせた体系的な課程に加え、臨床医学との接点となる統合科目や、医学研究に触れる医学研究実習を開講する。
3. 臨床医学教育では、病態・疾患を臓器別に学ぶ課程を終えた後に、新潟大学医歯学総合病院と近隣の基幹病院等で組織される臨床教育協力施設においてプライマリ・ケアから高度先進医療までを医療チームに参加して学ぶ診療参加型実習を開講する。
4. 国際的感覚を有したリーダーを育成するため、医学英語教育の推進と共に、医学研究実習や臨床実習を海外施設で行う機会を設ける。

保健学科

教育課程の特徴

保健学科の特徴としては、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻を置き、保健医療を中心に自己開発を目指す優れた臨床医療技術者の育成を教育目標とし、かつ生涯にわたり保健学を探究し、国内外の保健・医療に寄与する独自性の高い研究・開発ができる能力を育成する教育を行っている。3専攻で構成されている強みを生かして、教員の研究活動、成果を生かした多彩な教育内容を展開し、専門的かつ総合的な保健学教育を充実させている。現場での実践力と将来、保健医療チームのリーダーとなる質の高い人材育成をめざし、同じキャンパスで医学科、歯学部の学生とともに、さらに海外の学生との交流

を通し、医歯学総合病院や海外協定大学などの協力を得た包括的教育体制のもと学びあっている。

教育課程の編成方針

保健学科では、3専攻それぞれが必修・選択科目を設定し、学生が主体的に幅広く学ぶ機会を設けている。専門基礎科目は4分野（生命科学分野，健康科学分野，医療社会分野，国際医療分野）からなり，専門科目と有機的に関連する。たとえば生命科学分野は専門科目の疾病・治療学・診断学への，健康科学分野は看護援助論・放射線治療技術学・健康管理論への導入としている。また，小グループ学習やチーム基礎型学習などの授業形態を組合せ，洞察力，分析力，コミュニケーション能力，アイデア力の育成を図っている。これらの学習に必要な技術（発想法，文献検索法，発表法等）を学習させている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

・医学科

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/medicine/threepolicies-f/>

・保健学科

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/health/threepolicies-f/>

（概要）

医学科

教育内容・特色

医学科の教育理念と教育目標に基づき，学位授与の方針に合致した人材を育成するために，共通教育科目と専門教育科目を体系的に編成し，能動的学修（アクティブラーニング）の機会を全学年で設けると共に，先端医学，社会的要請，国際基準に対応する教育課程を編成・実施しています。

求める学生像

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を十分に有する人
- 医学を学ぶ上で重要な科目への高い理解力と応用力を有する人
- 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探求心を有する人
- 協調性に富み，豊かな教養と人間性を有する人
- 広い視野を有し，積極的に行動できる人

入学選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持ち，医学を学ぶ上で重要な科目への高い理解力と応用力を有し，意欲的で協調性に富み行動力に溢れる学生を選抜します。

●大学入試センター試験では，5教科7科目の試験を課し，基礎学力を評価します。個別学力検査では，英語，数学，理科（物理・化学・生物から2科目選択）を課し，理解力や応用力などを評価します。面接試験では，理解力や判断力とともに人間性，倫理観，協調性や向学心を評価します。

推薦入試

●高等学校卒業レベルの基礎学力を持ち，医学を学ぶ上で重要な科目への高い理解力と応用力を有し，意欲的で協調性に富み行動力に溢れる学生を選抜します。

●大学入試センター試験では，5教科7科目の試験を課し，基礎学力を評価します。調査書，志願理由書および面接試験では，理解力や判断力とともに人間性，倫理観，協調性や向学心を評価します。

●推薦入試（地域枠）では，推薦入試（一般）と同様のほか，とくに面接試験において新潟県で医療を担う強い意志を有することを評価します。

保健学科

看護学専攻

教育内容・特色

●教員の専門分野を生かした最新の知識・技術を教授する講義・演習と、看護実践能力を養うための臨地実習が充実しています。

隣接する医学科や医歯学総合病院と連携して、医学と看護学が有機的に結びついた教育を行っています。

●看護師および保健師の国家試験受験資格を取得できる教育課程に加えて、3年次選抜により助産師の国家試験受験資格を取得できる教育課程もあります。

●本学大学院保健学研究科に進学し、更に専門を究めることを希望する者にも対応した、基礎と基本を重視した専門教育を行っています。

求める学生像

●看護師、保健師や助産師の役割に関心をもち、多様な社会的要請に応えて貢献していきたいというチャレンジ精神のある人。

●医療や健康の保持増進に関心があり、協調性豊かな人。

●人々の生活と社会に深い関心を持ち、人間愛に満ちた人。

●生涯にわたって主体的に学習し、自ら成長していきたいという意欲がある人。

●医療ならびに看護に関する科学的知識と技術の習得に熱意を示す人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

●大学レベルの学習に必要なバランスのとれた十分な学力を有する者を選抜します。

●大学入試センター試験では教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では国語と外国語（英語）を課し、看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を評価します。

一般入試（後期日程）

●大学レベルの学習に必要なバランスのとれた十分な学力を有し、看護に対する専門分野の幅広い興味と関心の高さおよび看護職としての適性を有する者を選抜します。

●大学入試センター試験では教科7科目もしくは8科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では小論文と面接を課し、人物と看護学を学ぶ上での理解度・論理性等を評価します。

推薦入試

●看護学の専門知識を学ぼうとする明確な目的意識と勉学意欲があり、専門分野の幅広い興味と関心の高さおよび看護職としての適性を有する者を選抜します。

●大学入試センター試験を免除し、本学が実施する試験等（小論文と面接）を課し、看護学を学習する熱意および医療に関する科学的知識や思考力等を評価します。

放射線技術科学専攻

教育内容・特色

●各教員の専門分野を生かした最新の知識を教授する講義と、高度な実践能力を養うための実習教育が充実しています。

隣接する医歯学総合病院と連携して、医学と放射線技術科学が有機的に結びついた教育を行っています。

●本学大学院保健学研究科に進学し、更に放射線技術科学を追求したいと希望する人にも対応した基礎と基本を重視した専門教育を行っています。

求める学生像

●放射線技術科学や健康の保持増進に関心があり、協調性豊かな人。

●人々の生活と社会に深い関心を持ち、人間愛に満ちた人。

- 生涯にわたって学習し、成長していきたいという意欲がある人。
- 医療、特に放射線技術に関する科学的知識と技術の習得に熱意を示す人。
- 入学後の学修のため、物理基礎・物理を履修していることが望まれます。また数学については数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ、数学A・数学B・数学活用を履修していることが望まれます。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

•大学における勉学に必要なバランスのとれた十分な学力を有し、専門分野に関連する科目への理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

•大学入試センター試験では5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では数学と外国語（英語）を課し、放射線技術科学を学ぶ上で必要な基礎学力を評価します。

一般入試（後期日程）

•大学における勉学に必要なバランスのとれた十分な学力を有し、医療・健康保持に関心があり、専門分野の幅広い興味および適性を有する人を選抜します。

•大学入試センター試験では5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では小論文と面接を課し、人物と放射線技術科学を学ぶ上での理解度・論理性等を評価します。

推薦入試

•高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力を持つ人を選抜します。

•大学入試センター試験を免除し、本学が実施する試験等（小論文と面接）を課し、放射線技術科学を学習する熱意、医療に関する科学的知識や思考力等を評価します。

検査技術科学専攻

教育内容・特色

•各教員の専門分野を生かした最新の知識を教授する講義と、高度な実践能力を養うための実習教育が充実しています。

隣接する医学科や医歯学総合病院と連携して、医学と検査技術科学が有機的に結びついた教育を行っています。

•本学大学院保健学研究科に進学し、更に専門を究めることを希望する者にも対応した、基礎と基本を重視した専門教育を行っています。

求める学生像

- 医療や健康の保持増進に関心があり、協調性豊かな人。
- 人々の生活と社会に深い関心を持ち、人間愛に満ちた人。
- 生涯にわたって学習し、成長していきたいという意欲がある人。
- 医療に関する科学的知識と技術の習得に熱意を示す人。

入学者選抜方針

一般入試（前期日程）

•大学における勉学に必要なバランスのとれた十分な学力を有する者を選抜します。

•大学入試センター試験では5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では外国語（英語）を課し、検査技術科学を学ぶ上での読解力と応用能力を評価します。

一般入試（後期日程）

•大学における勉学に必要なバランスのとれた十分な学力を有し、専門分野の幅広い興味と関心および適性を有する者を選抜します。

•大学入試センター試験では、5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では小論文と面接を課し、検査技術科学を学ぶ上で重要な論理的思考能力と応用能力並びに人物像を評価します。

推薦入試

•専門知識を学ぼうとする明確な目的意識と勉学意欲があり、専門分野における関心の高さと適性を有する者を選抜します。

•大学入試センター試験を免除し、本学が実施する試験等（小論文と面接）を課し、検査技術科学を学ぶ上で重要な論理的思考能力と応用能力並びに高等学校卒業レベルの基礎学力と人物像を評価します。

学部等名 歯学部

教育研究上の目的（公表方法：新潟大学歯学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

https://education.joureikun.jp/niiigata_univ/act/frame/frame110000514.htm

（概要）

新潟大学歯学部規程（抜粋）

（本学部の教育研究の目的）

第1条の2 本学部は国民の健康・福祉に寄与する口腔科学・保健・福祉に関する研究を基盤として、基礎的な専門知識と深い教養を備え、問題解決能力の育成及び倫理観の育成を通じて、創造性並びに感性豊かで社会に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/dentistry/threepolicies-f/>

（概要）

人材育成目標

学士課程教育を歯科医療従事者としての生涯学習の最初の段階と位置づけ、問題解決能力の育成を重視し、その後続く大学院や実社会での学習のなかで専門性を主体的に向上させようとする人材を育成する。

修了認定（学位授与）の基準）

歯学部では、歯学教育プログラム、口腔保健福祉学教育プログラムの2つの主専攻プログラムを有し、各プログラムで修了認定の基準を定めている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/dentistry/threepolicies-f/>

（概要）

教育課程の共通的な特徴

学士課程教育を到達目標明示型の教育プログラムとして構築している。到達目標を「知識・理解」「専門的能力」「汎用的能力」「態度・姿勢」の4つの観点から整理し、カリキュラムマップにより各授業科目と関連づけている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/dentistry/threepolicies-f/>

(概要)

歯学科

教育内容・特色

歯学部歯学科は、歯学分野における専門的知識・技術を深く究めるとともに、関連する医学分野の知識も併せ持ち、全人的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師を育成します。さらに、歯科医学発展に貢献できる指導的な人材（研究者・教育者）や地域歯科医療に貢献する専門職業人の育成に努めています。

歯学部歯学科では情報化・国際化などの現代的ニーズに対応するため、コンピューターリテラシー教育や外国語教育を拡充するとともに、変化の激しい現代社会のなかで、新たな諸課題に関係者と適切に連携しながら問題解決を図っていく能力を育成するため、少人数グループによる問題発見解決型学習法（Problem-based learning）を導入しています。また、効果的な学習のため、専門科目の統合・再編成を行い、密度の高いバランスのとれた講義・実習を行っています。特に臨床実習には力を入れており、入学直後から歯科医学へのモチベーションを高めるための早期臨床実習を行うとともに、口の中を総合的に診療できる能力の育成を目的に、一貫した基礎・臨床実習教育システムを導入し、5年次後半からの臨床本実習では実際の患者さんの診療に直接関わる診療参加型臨床実習を実施しています。

求める学生像

- 歯科医学・歯科医療、口腔生命科学の研究に対して高い目的意識を持った人。
- 人間性豊かで相手の気持ちを理解することができる人。
- 自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人。
- 強い学習意欲を持ち、広い学識の修得を目指す人。
- 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を身につけ、国語・外国語の文章読解力及び表現力と論理的思考力を備えている人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

● 学科における勉学に必要な幅広い基礎学力に加え、専門分野に関連する科目に対する高い意欲と適性を持つ人を選抜します。

● 大学入試センター試験では、5教科7科目の試験を課し、学科における勉学に必要な幅広い基礎学力を評価します。個別学力検査では、数学、理科、外国語および面接を課し、基礎学力および勉学への意欲、理解・判断力、コミュニケーション力、論理的思考力等を総合的に評価します。

一般入試（後期日程）

● 学科における勉学に必要な幅広い基礎学力に加え、歯学・歯科医療に対する明確な目的意識および高い適性を持つ人を選抜します。

● 大学入試センター試験では、5教科7科目を課し、学科における勉学に必要な幅広い基礎学力を評価します。個別学力検査では、面接を課し、勉学への意欲、理解・判断力、コミュニケーション力、論理的思考力等を総合的に評価します。

推薦入試

● 学科における勉学に必要な幅広い基礎学力に加え、人物・学業ともに優れ、歯学・歯科医療に対し深い関心を持ち、目的意識が明確で勉学意欲旺盛な人を選抜します。

● 大学入試センター試験では、5教科7科目を課し、学科における勉学に必要な幅広い基礎学力を評価します。さらに、小論文および面接を課し、勉学への意欲、論理的思考力、記述力、理解・判断力、コミュニケーション力等を総合的に評価します。

上記以外に帰国子女特別入試、私費外国人留学生特別入試、第2年次編入学試験を実施しています。

口腔生命福祉学科

教育内容・特色

歯学部口腔生命福祉学科では、超高齢社会に対応するため、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から、保健医療福祉に関する深い理解と専門的知識に基づき、患者・利用者の方が真に必要なサービスを総合的に思考・展開できる専門職業人（歯科衛生士・社会福祉士）を育成します。

卒業時に歯科衛生士と社会福祉士の国家試験受験資格を併せて取得する全国初のカリキュラムを提供しています。

効果的な学修のため、従来分野・科目の枠にとらわれない統合的な授業科目を設定しているほか、1年次から全学年を通じ、新潟大学医歯学総合病院や学外の保健・福祉施設での臨床実習・現場実習を実施しています。また、変化の激しい現代社会のなかで、新たな諸課題に関係者と適切に連携しながら問題解決を図っていく能力を育成するため、少人数グループによる問題発見解決型学習法（Problem-based learning）を全面的に導入しています。

保健医療福祉にまたがる幅広い専門知識・技術を身につけた口腔生命福祉学科卒業生は、行政、医療機関（病院・診療所）、介護・障害福祉施設など様々な分野で活躍しています。

求める学生像

- 口腔の健康増進を基盤とした保健医療福祉に対し高い目的意識を持った人。
- 患者・利用者の方の痛みや苦しみを理解できる人間性豊かな人。
- 自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人。
- 地域や国際社会で保健医療福祉への貢献・向上に努めたいと思っている人。
- 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を身につけ、国語・英語の文章読解力及び表現力と論理的思考力を備えている人。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

•学科における勉学に必要な高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目に対する高い意欲と適性を持つ人を選抜します。

•大学入試センター試験では、5教科6科目もしくは7科目又は6教科6科目もしくは7科目の試験を課し、学科における勉学に必要な高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、英語および面接を課し、基礎学力および勉学への意欲、理解・判断力、コミュニケーション力、論理的思考力等を総合的に評価します。

推薦入試

•学科における勉学に必要な高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、人物・学業ともに優れ、歯科医学及び社会福祉分野に対し深い関心を持ち、目的意識が明確で勉学意欲旺盛な人を選抜します。

•大学入試センター試験では、5教科6科目もしくは7科目又は6教科6科目もしくは7科目の試験を課し、学科における勉学に必要な高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。さらに、小論文および面接を課し、勉学への意欲、論理的思考力、記述力、理解・判断力、コミュニケーション力等を総合的に評価します。

上記以外に歯科衛生士学校養成所卒業者を対象とした第3年次編入学試験を実施しています。

学部等名 工学部

教育研究上の目的（公表方法：新潟大学工学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

https://education.jourei.kun.jp/niiigata_univ/act/frame/frame110000527.htm

(概要)
新潟大学工学部規程(抜粋)
(本学部の教育研究の目的)
第2条 本学部は、工学に関する教育研究を通じて基礎的な専門知識と教養を習得させ、自然・社会に対する倫理的な判断能力、基礎理論・技術を理解する能力、課題を発見し解決する能力、コミュニケーション能力をもち、社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針(公表方法:新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))
<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/engineering/threepolicies-f/>

(概要)
人材育成目標
下記の3つのタイプの高度専門人材「知のプロフェッショナル」を育成する。
●科学と技術に対する深い知識に基づいてグローバルに研究あるいは技術開発ができる資質を持った高度専門人材
●広い教養があり、科学と技術に対する知識に基づいてグローバルに技術開発ができる資質を持った高度専門人材
●幅広い教養があり、科学と技術に対する深い見識に基づいてグローバルに研究あるいは技術開発を牽引し、ビジネス展開ができる資質を持った高度専門人材

修了認定(学位授与)の基準)
工学部では、それぞれの主専攻プログラムの教育課程の中で、共通して以下の能力を養成する。
●自然・社会に対する倫理的な判断能力
●基礎理論・技術を理解する能力
●課題を発見し解決する能力
●コミュニケーション能力

これらの能力を身に付け、各主専攻プログラムの修了認定の基準を満たした者に、学士の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))
<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/engineering/threepolicies-f/>

(概要)
教育課程の特徴
●1年次では工学を学ぶための導入教育を受けることで、工学全体を俯瞰し、専門を学ぶことに対する動機付けと目的意識の確立を行う。
●2年次より専門分野の教育プログラムを決定する。学生は、この段階で動機と目的を明確にして専門分野を学修する。

学部(学科)で、共通的な教育課程の編成方針
1年次では、一つの専門分野に閉じることなく工学全体を俯瞰させるための基礎教育を工学部共通教育として実施し、さらに2年次以降に学ぶ専門分野に必要な基礎知識を修得させる。そのために、大学学習法(工学リテラシー入門)におけるアクティブラーニングの導入やインターンシップによる社会・企業体験を通じた、主体的に学修する学生への転換教育、総合工学概論や総合技術科学演習による複数分野の基礎知識・基礎技能を獲得させる基礎教育、技術者や研究者の心がまえに関する倫理教育、及び専門分野を学ぶ上での基礎となる数物化系・社会科学系・情報リテラシーに関する分野導入教育を行う。2年次～4年次では、主専攻プログラムにより段階的に基盤的学問分野と専門学問分野をバランスよく学習していき、学部4年次では、卒業研修と卒業研究あるいはチーム・インターンシップなどにより様々な社会の課題に対して解決策を見出していく能力を身につける。さら

に海外英語研修や海外研修などによりグローバルなエンジニアリング・デザイン能力を培う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/engineering/threepolicies-f/>

（概要）

教育理念・目標

新潟大学工学部では、次のような素養を身につけた優秀な技術者・研究者を育成することを目標としています。

- ものづくりをたいせつにする心
- 豊かな創造力と柔軟な思考力
- 自主性と高い倫理観に支えられた実践力

その実現のために、本学工学部では、工学の基礎をしっかりと学んだうえで、先端技術の開発に対応できる応用力を身につけることが可能な仕組みを準備しています。また、実践教育やキャリア教育を体験できる教育プログラムを設けているので、体験を通して自分の可能性を伸ばす業種を探することができます。

教育内容・特色

一年次においては、工学教育への転換・導入教育を受けた後に、力学分野、情報電子分野、化学材料分野、建築分野あるいは融合領域分野の五つの分野に分かれて勉強します。このように工学全体を学んだうえで、二年次から主専攻プログラムに分かれて専門分野について学びます。

また、新潟大学工学部では、次のような質が高く特色ある教育を展開しています。

•自主的なものづくりプロジェクトを通じてものづくりの魅力や楽しさに触れ、「つくる力」と「学ぶ力」（この二つを合わせて「工学力」と呼んでいます）を習得するための教育を行っています。

•「知識の応用力」を効果的に身につけさせることを目的に、失敗を経験しながら新たな工学技術や研究開発へと導く教育を一年次から実施しています。

•企業等と連携した実践的工学キャリア教育を行っています。

•学生のチームが研究や技術開発に関する活動を行い、相互に啓発できる場「スマート・ドミトリー」プログラムを実施し、国際的に活躍できる秀でた学生「トップ・グラジュエイツ」を育成する教育を行っています。一年次から参加でき、高い研究能力が身につきます。

•従来の専門教育に加え、実践英語コース及び国際教養プログラムの提供や段階的海外留学の機会を設け、大学教育のグローバル化を推進しています。

•国際的に認定された教育プログラム（JABEE 認定プログラム）や学部段階からの国際交流により、国際的に通用する高いレベルの学力が得られます。

•高等学校や高等専門学校等でのさまざまな履修形態に配慮しつつ、大学院と教育・研究に関して強い連携を図り、毎年、多数の卒業生が大学院に進学しています。また、主専攻プログラムごとの就職指導によって不況にも強い就職実績を上げています。

求める学生像

教育理念・目標にあげた三つの素養を身につけた技術者・研究者になりたいと思う皆さんの入学を歓迎します。具体的には、工学の基礎から先端技術に関する専門的知識の習得、及び多様な知識の習得を目指す意欲と行動力を持った人の入学を希望します。

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

高等学校卒業レベルの基礎学力を有するとともに、専門分野に関連する科目への高い理解力と応用力を持つ学生の入学を希望します。

大学入試センター試験では、5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

個別学力検査では、数学、理科、英語を課し、工学分野を学ぶ上で特に重要な科目への理解力と応用力を評価します。

一般入試（後期日程）

高等学校卒業レベルの基礎学力を有するとともに、勉学意欲と工学分野への高い関心を持つ学生の入学を希望します。

大学入試センター試験では、5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

個別学力検査では、面接を行い、工学分野を学ぶ意欲と能力を評価します。

推薦入試

高校で学んだ専門分野の基礎知識（該当する出願要件で出願する志願者に限る）、大学における勉学に必要な基礎学力、思考力、勉学意欲、明確な志望動機及び主体性を持ち、各主専攻プログラムの工学分野への高い関心を有する学生の入学を希望します。

面接（志望する主専攻プログラムに応じて課す口頭試問を含む）及び出願書類を総合して、各主専攻プログラムの工学分野を学ぶ意欲と能力を評価します。

推薦入試

大学における勉学に必要な基礎学力、思考力、勉学意欲、明確な志望動機及び主体性を持ち、各主専攻プログラムの工学分野への高い関心を有する学生の入学を希望します。

面接（基礎学力に関する口頭試問は含まない）、大学入試センター試験（3教科3科目）の成績及び出願書類を総合して、各主専攻プログラムの工学分野を学ぶ意欲と能力を評価します。

総合型選抜入試（AO入試）

大学における勉学に必要な基礎学力、思考力、勉学意欲、明確な志望動機及び高等学校等内外での活動に係る主体性と表現力等を持ち、各主専攻プログラムの工学分野に関する基礎から先端技術にわたる専門的知識及び多様な知識の習得を目指す意欲と行動力を持った人や、社会の諸問題に対して興味・関心を持ち、工学分野の専門的知識を駆使してそれらの問題の解決策を考える意欲と行動力を持った人の入学を希望します。

出願書類、小論文及び面接（自己推薦書の内容に基づいたプレゼンテーション及び志望する主専攻プログラムに応じて課す口頭試問を含む）を総合して、各主専攻プログラムの工学分野を学ぶ意欲と能力を評価します。

【各主専攻プログラムの工学分野】

●機械システム工学プログラム：ロボティクス、ナノ・マイクロ工学、機械設計・材料・加工、エネルギー工学、医工学

●社会基盤工学プログラム：応用力学、水工学、地盤工学、コンクリート工学

●電子情報通信プログラム：電気エネルギー、電子デバイス、光エレクトロニクス、通信システム

●知能情報システムプログラム：コンピュータサイエンス、情報ネットワーク、マルチメディア、情報セキュリティ

●化学システム工学プログラム：化学、応用化学、化学工学、材料化学

●材料科学プログラム：エネルギー変換材料、超伝導・磁性材料、有機・無機材料、ハイブリッド材料、医療材料

●建築学プログラム：建築材料・構造学、建築環境工学、建築意匠・計画学、都市計画学、

<p>都市法学</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間支援感性科学プログラム：生体医工学, 支援技術(福祉工学), デザイン工学, 音楽・音響創造学, 健康・スポーツ科学 協創経営プログラム：技術経営, イノベーション・マネジメント, システム工学, 総合工学
<p>学部等名 農学部</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法：新潟大学農学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))</p> <p>https://education.joureikun.jp/niiigata_univ/act/frame/frame110000544.htm</p>
<p>(概要)</p> <p>新潟大学農学部規程(抜粋)</p> <p>(本学部の教育研究の目的)</p> <p>第1条の2 本学部は、生命(いのち)の尊さを基本に、農業及びバイオ・食品関連産業の発展、持続的な食料生産と環境保全を目指し、幅広い基礎学力と応用力を育む教育と研究を行う。それにより、地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し、具体的な解決策を提言できる構想力、リーダーシップと高い倫理観を併せ持ち、我が国のみならず、広く世界で活躍できる人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))</p> <p>https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/agriculture/threepolicies-f/</p>
<p>(概要)</p> <p>人材育成目標</p> <p>農学部では、生命(いのち)の尊さを基本に、農業及びバイオ・食品関連産業の発展、持続的な食料生産と環境保全を目指し、幅広い基礎学力と応用力を育む教育を行う。それにより、地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し、具体的な解決策を提言できる構想力、リーダーシップと高い倫理観を併せ持ち、我が国のみならず、広く世界で活躍できる人材を養成する。</p> <p>修了認定(学位授与)の基準)</p> <p>農学部では、それぞれの主専攻プログラムの教育課程の中で、共通して以下の能力を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 創造性豊かで広い視野を持てる。 農学分野の幅広い基礎学力と総合的応用力を発揮する。 高い倫理観を持って多様化する社会の要請に柔軟に対応できる。 <p>これらの能力を含む形で定められている各主専攻プログラムの修了認定の基準を満たした者に、学士の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))</p> <p>https://www.niiigata-u.ac.jp/academics/faculty/agriculture/threepolicies-f/</p>
<p>(概要)</p> <p>教育課程の共通的特徴</p> <p>農学部では、教育課程として1年次に主として教養教育・語学教育と農学分野の学部共通基礎科目(入門科目)を履修する。1年次後半から2年次前半にかけて学部共通基礎科目としての主題科目を履修し、2年次前半終了後に主専攻プログラムを選択する。そして、2年次後半に専門基礎科目を履修し、3年次以降は専門科目が中心となる。</p> <p>農学部では、多様化する社会の要請に柔軟に対応し得る素養と国際的な視野を身に付けた、農学分野の幅広い知識と技術を備えた農学系人材を育成するため、以下の特徴をもった教育課程を編成する。</p>

●世界・社会・文化・自然についての幅広い知識を身につける教養教育に関する科目，農学に関わる基本的知識を身につける農学部共通基礎科目(入門科目，主題科目)，特定分野の力を伸ばす専門基礎科目，専門科目を適切に配置し，初年次教育から卒業研究に至るまでの教育課程を体系化する。

▶年次から2年次前半に農学全般を学ぶ学部共通基礎科目を設定し，本学部で学ぶ意識を醸成する。

●課題解決力や就業力の基礎を身に付けるため，大学学習法，就業力育成科目を初年次に配置する。また，それぞれの主専攻プログラムにおいて，2，3年次にもアクティブラーニングの手法を取り入れた演習，実験・実習科目を配置する。

●各主専攻プログラムへの配属は2年次後半からであるが，それまでに幅広い分野の教育・研究に触れつつ，社会意識を深め，社会的要請を的確に認識しながら，自らの興味・関心と能力・適性等に基づいて主専攻プログラムが選択できる。

●各主専攻プログラムが掲げる教育目標に照らし合わせ，必要に応じて他主専攻プログラムの講義科目も含めて学生が自らの学修をデザインする。

●卒業論文研究については，自らの所属する主専攻プログラムの総仕上げとなるべくテーマが選択できる。

●高度職業人の育成のため，学年進行に対応した就業力育成科目を配置する。

●グローバル人材育成のため英語で開講する科目や英語でのプレゼンテーションスキル獲得，海外語学研修などのグローバル科目を積極的に導入する。

●農学部と理学部が共同で設置する学部横断型主専攻プログラムでは，農学部，理学部に加えて大学の附置研究所も積極的に教育に参加する。

●専門職業人・研究者の育成のため，大学院への接続をふまえた教育課程を編成する。

学部で，共通的な教育課程の編成方針

農学部では，学部共通教育の充実により本学部に入学者の学修や，進路の柔軟性を保証できる体制をとる。まず，1年次から2年次前半にかけて農学部共通基礎科目を開設し，農学について幅広く学修する機会を提供する。入学後すぐに入門科目を必修科目として履修させ，本学部で開設している各主専攻プログラムの概要を知ってもらう。1年次の後半から2年次の前半にかけて6つの主題科目を選択必修科目として配置する。この主題科目群は主専攻プログラムの枠に捉われないこととなく，食料，生命，環境，食品をキーワードに，農学分野のトピックスについて解説する科目となっている。また，2年次前半には「基礎農林学実習」を必修として課し，農学部附属フィールド科学教育研究センターを活用した実習を通して，農林業の生産現場での課題探求に臨む。合わせて，地域と連携した就業力育成科目を各学年に配置し，就業力を段階的に育成できるようにする。

このように，学部共通教育を充実させることにより，学生は農学の幅広い分野を多面的に捉える視点を養うことができ，農学人材としての基盤形成を図りつつ，2年次後半からの主専攻プログラム選択の一助とすることができる。

入学者の受入れに関する方針(公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/agriculture/threepolicies-f/>

(概要)

養成する人材像

新潟大学農学部は，生命(いのち)の尊さを基本に，農業およびバイオ・食品関連産業の発展，持続的な食料生産と環境保全を目指し，幅広い基礎学力と応用力を育む教育と研究を行う。それにより，地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し，具体的な解決策を提言できる構想力，リーダーシップと高い倫理観をあわせ持ち，我が国のみならず，広く世界で活躍できる人材を養成する。さらに各主専攻プログラムにおいて，以下のような人材を養成する。

●応用生命科学プログラムでは生命現象とその応用に関する高度な専門知識と実験技術を幅広く修得した，化学(医薬品，化粧品，化成品等)・食品・環境・農業・エネルギー等のバイオ関連分野の研究，技術開発，教育等で活躍できる人材を養成する。

•食品科学プログラムでは、食品の原材料、加工、栄養、機能性、安全性、マーケティング等に関する先端的で幅広い専門知識と技術を有し、食に関連する研究、技術・商品開発、教育等に携わる有能な人材を養成する。

•生物資源科学プログラムでは、バイオテクノロジーや環境に配慮した先進的技術を用いた動植物・食料資源の利活用を目指すとともに、地域の発展を世界的視野を持って考えられる人材を養成する。

•流域環境学プログラムでは、地域および地球規模での自然環境と調和した森林や流域の管理と、地域の農業生産基盤の創出・保全を通じて、人間生活を豊かにできる人材を養成する。

•フィールド科学人材育成プログラム(分野横断型)では、生態学と災害科学の知識と技術を合わせ持ち、それらを統合して多様なフィールドでの実践活動に応用できる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー

新潟大学農学部は、生命(いのち)の尊さを基本に、農業およびバイオ・食品関連産業の発展、持続的な食料生産と環境保全を目指し、幅広い基礎学力と応用力を育む教育を行っています。そのために、地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し、具体的な解決策を提言できる構想力、リーダーシップと高い倫理観をあわせ持ち、我が国のみならず、広く世界で活躍することに意欲のある学生を求めています。さらに各主専攻プログラムにおいて、以下のような学生を求めています。

•応用生命科学プログラム：化学と生物学を基盤とし、最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノムサイエンス等、微生物・植物・動物の生命現象とその応用に関する高度な専門知識と実験技術の修得に強い関心のある人。

•食品科学プログラム：現代の食品に求められる栄養価、美味しさ、健康など多様な機能を理解できる化学や生物の基礎学力を持ち、食品成分の化学的基礎から、食品の開発、製造、販売まで食に関する幅広い分野に強い関心のある人。

•生物資源科学プログラム：動植物の遺伝子から個体を取り巻く環境までを理解し、生物資源の利活用におけるバイオテクノロジーや先進的技術の開発と応用に挑戦する意思を持ち、さらに国際的視点を持ちながら食料生産や農山村地域の持続的発展に強い関心のある人。

•流域環境学プログラム：河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を対象とし、地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動に強い関心のある人。

•フィールド科学人材育成プログラム(分野横断型) 野生動植物の生態や保全、自然環境に配慮した防災・減災対策・災害復興、生態系や自然災害に関わりの深い環境の動態に関する知識や技術の修得と、多様なフィールドでの実践活動に強い関心のある人。

学部等名 創生学部

教育研究上の目的(公表方法：新潟大学創生学部規程を新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

https://education.joureikun.jp/niigata_univ/act/frame/frame110000592.htm

(概要)

新潟大学創生学部規程(抜粋)

(本学部の教育研究の目的)

第2条 本学部は、社会における多様な課題に関する研究を基盤として、論理的思考と科学的根拠に基づいた課題解決能力を身につけ、生涯学び続ける姿勢を持ち、他者と協働して複雑化する社会を生き抜く人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針(公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/creation/threepolicies-f/>

(概要)

プログラムの人材育成目標

本プログラムでは、多面的で複雑化した社会における課題を抽出し、その解決に必要な知識を獲得でき、分野の異なる他者と協働して、論理的思考と科学的根拠に基づいた課題解決ができる人材の育成を目指している。すなわち、この課題解決過程により自己の人材価値を生涯にわたって能動的に高めていくことができる人材、「自己創造型学修者」の育成を目標とする。

プログラムの修了認定(学位授与)の基準(どのような力を身に付けた者に学位を授与するか)

人材育成目標に対応して養成する以下の能力を修得し、本プログラムで定める修了要件を満たした者に、学士の学位を授与する。

- 課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢
- 課題解決に必要な分析力 論理的思考力
- 他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力
- 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:新潟大学ホームページにおいて公表(URLは以下のとおり))

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/creation/threepolicies-f/>

(概要)

プログラムの到達目標

本プログラムが設定するディプロマ・ポリシーに対応して、学士課程全体を通じて学生が自ら到達目標を設定し学修を進めることを原則とする。設定される到達目標は学生によって異なるが、ディプロマ・ポリシーで示す「課題解決力」「協調性(コーディネート能力)」「汎用的能力」「態度・姿勢」は、目標設定における共通的な指針となる。

また、「領域学修科目(区分)」については、それぞれの領域学修パッケージを提供する主専攻プログラムが提示する目標を考慮して、選択した専門領域の学修に関する到達目標を設定する。

学生が1年次から到達目標を設定し、学修を進めるが、学修の進展に合わせて、担当教員からの助言のもとで到達目標の内容を改善する。

プログラムの履修要件

アドミッション・ポリシーに掲げる入学者選抜の基本方針に記載されている内容と同じである。

カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

ディプロマ・ポリシーに示す能力を養成するために、本プログラムでは以下のカリキュラム立案の基本方針とそれに対応する授業科目区分を定めた教育課程を編成している。

●リテラシー(複数の領域の見地から物事を「視る力」、異なる環境(状況)に「適応する力」、他者と協働するプロジェクト等を「コーディネートする力」)養成のための汎用的能力・課題解決力を涵養する授業科目を中核に据えている。そのために、課題把握・分析・実践(統合)のための「リテラシーコア・課題解決実践科目(区分)」を設けている。

●生涯にわたって学び続けることができる主体性とスキルを涵養するために学修に対する動機を高く維持する授業科目を初年次から配置している。そのために、学修への動機づけと能動性を高める「導入・転換教育科目(区分)」を設けている。

●多面的な視点から学問領域の知識を統合する上で、必要となる専門領域の知識・技能を修得するための領域別授業科目を2年次から4年次に配置している。そのために、専門領域の知識・理解を修得するための「領域学修科目(区分)」を設けている。

●学修成果の質保証を厳格に行い、学生自らの学士力を総括的に評価するための授業科目を4年次に配置している。そのために、学修成果と学位の質保証のための「学修成果総括科

目（区分）」を設けている。

以上の授業科目（区分）を体系的に配置し，4年間を通じたゼミ・ラボワーク及び「リフレクションデザイン ～ 」を通じて，学生の主体的選択によって学修をデザインできるカリキュラムを編成している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり））

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/creation/threepolicies-f/>

（概要）

教育内容・特色

1. 「課題発見・課題解決能力」の育成を重視したカリキュラム
 - 学ぶ意識を転換する初年次からの学外（地域、産業界）での学習プログラム
 - 課題を把握し，解決する力を育てる授業科目群を初年次から卒業まで一貫して提供
 - 課題を把握し，表現するために必要なデータ分析力と英語力の強化
 - グループ主体のゼミ/ラボ活動をとおり，コミュニケーション能力と協働してプロジェクトを実行する力を育成
2. 「22の領域学修科目パッケージ」から自分にあった専門分野を選択
 - 学生一人ひとりの関心に合わせて，人文・法・経済・理・工・農の各学部が提供する専門授業科目群（領域学修科目パッケージ）を選択
 - 他分野の学生たちとの交流を通じて，ものごとを多角的にとらえる力を養成
 - 専門領域で学んだ内容を課題の解決に活用する方法を考える授業科目群を提供
3. 卒業までに身につけた学士力の質を保証する仕組み
 - 卒業までの目標を学生が自分で設定し，目標に到達するための計画を作成
 - 設定した目標の達成状況を学生みずからまとめ，その評価により学士力を保証
4. 少人数教育と教員による手厚いサポート
 - 初年次から卒業までの4年間を通じた少人数指導体制により，教員がきめ細かに学生一人ひとりの履修を支援
 - 異学年の学生どうしの交流を促進する「学年縦断型ゼミ」の編成

求める学生像

- 課題探究・解決に関心を持ち，将来のキャリアを自ら見つけることに熱意のある人
- 特定分野にとらわれない幅広い領域に興味関心を有し，基礎的な学力のある人
- 他者とのコミュニケーションを積極的にを行い，自己表現できる人

入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

- 高い基礎学力を持つとともに，幅広い分野に関心を持つ人を選抜します。
- 大学入試センター試験では，5教科7科目を基本とし，文系型では理科1科目＋地歴公民2科目，理系型では理科2科目＋地歴公民1科目を課します。個別学力検査では，英語を必須科目として課し，国語と数学から1教科を選択科目として課します。

一般入試（後期日程）

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに，他者とのコミュニケーションを積極的にを行い，表現力の高い人を選抜します。
- 大学入試センター試験では，5教科7科目を基本とし，文系型では理科1科目＋地歴公民2科目，理系型では理科2科目＋地歴公民1科目を課します。個別学力検査では，面接を課します。

推薦入試

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、課題探究意欲の高い人を選抜します。
- 大学入試センター試験では、3教科3科目を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。面接では、課題探究意欲を評価します。

教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URL は以下のとおり）
<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/>

教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
-	15人	-					15人
人文学部	-	15人	36人	0人	4人	1人	56人
教育学部	-	32人	42人	5人	1人	0人	80人
法学部	-	18人	15人	1人	3人	2人	39人
経済学部	-	11人	26人	1人	2人	2人	42人
理学部	-	38人	33人	1人	14人	0人	86人
医学部	-	24人	11人	0人	19人	0人	54人
歯学部	-	0人	0人	0人	1人	0人	1人
工学部	-	47人	49人	0人	22人	0人	118人
農学部	-	22人	20人	0人	20人	0人	62人
創生学部	-	11人	7人	0人	0人	0人	18人
大学院	-	81人	87人	20人	137人	40人	365人
附属病院	-	28人	24人	56人	150人	3人	261人
附置研究所	-	12人	18人	2人	26人	13人	71人
その他	-	16人	42人	3人	27人	1人	89人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		443人					443人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表（URLは以下のとおり） https://www.niigata-u.ac.jp/contribution/researchers/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
経営戦略本部教育戦略統括室（F D・S D部門）が中心となり、全学F Dを改善しつつ、各主専攻プログラム等で実施されているF Dについて、教員の参加状態を可視化し、明示する等の取り組みを行っている。							

入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	225人	236人	104.9%	912人	1,013人	111.1%	6人	8人
教育学部	220人	230人	104.5%	1,030人	1,114人	108.2%	0人	0人
法学部	180人	198人	110.0%	730人	793人	108.6%	5人	2人
経済学部	305人	309人	101.3%	1,250人	1,352人	108.2%	15人	11人
理学部	200人	205人	102.5%	810人	885人	109.3%	10人	6人
医学部	282人	282人	100%	1,437人	1,479人	102.9%	25人	16人
歯学部	60人	61人	101.7%	352人	349人	99.1%	11人	4人

工学部	530人	548人	103.4%	2,110人	2,306人	109.3%	20人	40人
農学部	175人	179人	102.3%	700人	756人	108.0%	10人	7人
創生学部	65人	68人	104.6%	195人	208人	106.7%	0人	0人
合計	2,242人	2,316人	103.3%	9,526人	10,255人	107.7%	102人	94人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	233人 (100%)	14人 (6.0%)	193人 (82.8%)	26人 (11.2%)
教育学部	359人 (100%)	29人 (8.1%)	310人 (86.4%)	20人 (5.6%)
法学部	195人 (100%)	6人 (3.1%)	171人 (87.7%)	18人 (9.2%)
経済学部	322人 (100%)	7人 (2.2%)	290人 (90.1%)	25人 (7.8%)
理学部	202人 (100%)	100人 (49.5%)	87人 (43.1%)	15人 (7.4%)
医学部	281人 (100%)	27人 (9.6%)	137人 (48.8%)	117人 (41.6%)
歯学部	64人 (100%)	0人 (0.0%)	24人 (37.5%)	40人 (62.5%)
工学部	514人 (100%)	316人 (61.5%)	188人 (36.6%)	10人 (1.9%)
農学部	164人 (100%)	58人 (35.4%)	103人 (62.8%)	3人 (1.8%)
合計	2,334人 (100%)	557人 (23.9%)	1,503人 (64.4%)	274人 (11.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 新潟大学ホームページにおいて公表 (URL は以下のとおり) https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/situation2.html				
(備考) 医学部医学科及び歯学部歯学科の「臨床研修医」は、「その他」に計上。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	236人 (100%)	197人 (83.5%)	36人 (15.3%)	3人 (1.3%)	0人 (0.0%)
教育学部	377人 (100%)	335人 (88.9%)	30人 (8.0%)	12人 (3.2%)	0人 (0.0%)
法学部	188人 (100%)	173人 (91.5%)	12人 (6.3%)	3人 (1.6%)	0人 (0.0%)
経済学部	281人 (100%)	245人 (86.6%)	28人 (9.9%)	8人 (2.8%)	0人 (0.0%)
理学部	208人 (100%)	171人 (82.2%)	26人 (12.5%)	11人 (5.3%)	0人 (0.0%)
医学部	122人 (100%)	94人 (77.0%)	28人 (23.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
医学部 保健学科	162人 (100%)	150人 (92.6%)	8人 (4.9%)	4人 (2.5%)	0人 (0.0%)
歯学部	40人 (100%)	35人 (87.5%)	4人 (10.0%)	1人 (2.5%)	0人 (0.0%)
歯学部 口腔生命福祉 学科	20人 (100%)	18人 (90.0%)	1人 (5.0%)	1人 (5.0%)	0人 (0.0%)
工学部	510人 (100%)	430人 (84.3%)	58人 (11.4%)	22人 (4.3%)	0人 (0.0%)
農学部	162人 (100%)	146人 (90.1%)	15人 (9.3%)	1人 (0.6%)	0人 (0.0%)
合計	2,306人 (100%)	1,994人 (86.5%)	246人 (10.7%)	66人 (2.9%)	0人 (0.0%)
(備考)					

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

シラバスについては、「シラバス作成に関するガイドライン」を策定している。シラバスに記載する各項目については、毎年、ガイドラインを見直し、改善案については、全学委員会等で審議を行い、承認されたガイドラインに基づき、シラバスを作成している。

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

ディプロマ・ポリシーで定めた人材育成目標に対しての学修成果を図りつつ、各教育課程における卒業要件単位を修得した学生に対し、各学部の教授会において、学位授与の要件を満たしているかについて判定を行っている。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	人文学科	124単位	有	22単位
教育学部	学校教員養成課程	124単位	無	単位

法学部	法学科	124 単位	有	22 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	22 単位
	経営学科	124 単位	有	22 単位
理学部	理学科	124 単位	有	28 単位
医学部	医学科	230.5 単位	無	単位
	保健学科	124 単位	無	単位
歯学部	歯学科	195 単位	無	単位
	口腔生命福祉学科	147 単位	無	単位
工学部	工学科	124 単位	有	28 単位
農学部	農学科	124 単位	有	24 単位
創生学部	創生学修課程	126 単位	有	24 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :

新潟大学ホームページにおいて公表しているもの (URL は以下のとおり)
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/compliance/education/>

新潟大学ホームページ及び印刷物として公表しているもの

・ NU STYLE (新潟大学概要 2019) (URL は以下のとおり)

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/pr/publications/data-book/>

・ 大学案内 2020 (URL は以下のとおり)

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/pr/publications/guide/>

授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
人文学部	人文学科	535,800円	282,000円	0円	
教育学部	学校教員 養成課程	535,800円	282,000円	0円	
法学部	法学科	535,800円	282,000円	0円	
経済学部	経済学科	535,800円	282,000円	0円	
	経営学科	535,800円	282,000円	0円	
理学部	理学科	535,800円	282,000円	0円	
医学部	医学科	535,800円	282,000円	0円	
	保健学科	535,800円	282,000円	0円	
歯学部	歯学科	535,800円	282,000円	0円	
	口腔生命 福祉学科	535,800円	282,000円	0円	
工学部	工学科	535,800円	282,000円	0円	
農学部	農学科	535,800円	282,000円	0円	
創生学部	創生学修 課程	535,800円	282,000円	0円	

大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>奨学金 日本学生支援機構や民間の育英奨学事業団等のほか、新潟大学独自のものとして、主に以下の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輝け未来!新潟大学入学応援奨学金(予約型奨学金) ・学業成績優秀者奨学金 ・修学応援特別奨学金 ・修学支援貸与金 <p>授業料免除等 学力基準、家計基準等の一定の要件に該当する者に対して、入学料及び授業料の免除等を行っている。</p> <p>上記の詳細については、以下のURLのとおり。 https://www.niigata-u.ac.jp/campus/economic/</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャリアコンサルタント等による個別相談・面接指導・履歴書添削 <ul style="list-style-type: none"> ・対象：全学年 ・実施期間：通年 ・進路の個別相談、面接指導(練習)、履歴書(エントリーシートを含む)の添削等の実施。 ○ 全学就職総合ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・対象：学部3年生、大学院1年生 ・開催時期：9月下旬 ・就職活動準備の出陣式と位置付け開催。毎年千数百人が参加。 ・参加者に本学オリジナル就活応援手帳『SAKU』等を配付。 ○ 業界研究セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・対象：全学年(主に学部3年生、大学院1年生) ・開催時期：10月～11月

・就職活動開始前に様々な仕事の魅力や業務内容等に関する情報提供を行い、職業選びの視点を広げ、仕事理解に繋げるためのセミナー。各業界を代表する企業様の協力のもと実施。

○ 企業等合同・個別説明会

- ・対象：学部3年生，大学院1年生 ・開催時期：3月
- ・企業等 約400機関（個別は，約110機関）を集め，学生動員は延べ1万人を超える学内で開催する最も大きな就活イベント。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

学生の心身の健康等に係る支援については，保健管理センターにおいて，健康診断の実施，その事後措置としての保健指導，身体的及び精神的な健康相談等を行っているほか，学生支援相談ルーム，特別修学サポートルーム，学生なんでも相談相談窓口，各学部に配置された相談員がそれぞれ連携を図りつつ，学生の心身の健康等に関する相談に対応している。

教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：新潟大学ホームページにおいて公表

- ・教育関連情報に係る公表方針（URLは以下のとおり）

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/compliance/education/>

- ・研究者総覧（URLは以下のとおり）

<https://www.niigata-u.ac.jp/contribution/researchers/>